

2021年度

授業シラバス

Kinsyukai Nursing College

看護第2学科



学校法人阪和学園
錦秀会看護専門学校

マトリクス 目次

授業科目、単位数及び時間数	1
科目別関連マトリクスⅠ：病態生理学	2
科目別関連マトリクスⅡ：看護学疾患および症状	3
科目別関連マトリクスⅢ：看護技術	4
科目別関連マトリクスⅣ：経過別看護援助	5
科目別関連マトリクスⅤ：看護過程	6

シラバス 目次
2021 年度入学生 (第 44 期生)

〈基礎分野〉

物理学	7
統計学	8
文学	9
哲学	10
心理学	11
社会学	12
教育学	13
英語	14

〈専門基礎分野〉

解剖生理学Ⅰ	15
解剖生理学Ⅱ	16
栄養と代謝	17
病態生理学Ⅰ	19
薬理学	20
微生物学	21
レクリエーション論	22
公衆衛生	24
社会福祉	25
総合医療論	26

〈専門分野Ⅰ〉

看護学概論Ⅰ	27
看護学概論Ⅱ	28
基礎看護学方法論Ⅰ (技術・コミュニケーション・フィジカルアセスメント)	29
基礎看護学方法論Ⅱ (看護過程)	30
基礎看護学方法論Ⅲ (環境・排泄・清潔・食事)	31
基礎看護学方法論Ⅳ (呼吸循環・感染・与薬)	33

〈専門分野Ⅱ〉

成人看護学概論	34
老年看護学概論	35
精神看護学概論	36

〈統合分野〉

看護の統合と実践Ⅰ (医療安全)	37
------------------	----

シラバス 目次
2020 年度入学生 (第 43 期生)

〈専門基礎分野〉

病態生理学Ⅱ (呼吸・循環・血液・脳神経)	39
病態生理学Ⅲ (消化器・内分泌・腎・感染症・感覚器)	41
病態生理学Ⅳ (女性・小児・精神・運動器)	43
看護関係法令	45

〈専門分野Ⅰ〉

基礎看護学方法論Ⅴ (活動・苦痛の緩和・検査・学習支援)	46
------------------------------	----

〈専門分野Ⅱ〉

成人看護学方法論Ⅰ (呼吸・循環・生体防御・消化器)	47
成人看護学方法論Ⅱ (内分泌・脳神経・排泄・運動器)	49
成人看護学方法論Ⅲ (周手術期・終末期・看護過程)	50
老年看護学方法論Ⅰ	51
老年看護学方法論Ⅱ	52
小児看護学概論	53
小児看護学方法論Ⅰ	54
小児看護学方法論Ⅱ	55
母性看護学概論	56
母性看護学方法論Ⅰ	57
母性看護学方法論Ⅱ	58
精神看護学方法論Ⅰ	59
精神看護学方法論Ⅱ	60

〈統合分野〉

在宅看護論概論	61
在宅看護論方法論Ⅰ	62
在宅看護論方法論Ⅱ	63
看護の統合と実践Ⅱ (救急・災害・国際)	64
看護の統合と実践Ⅲ (看護研究)	66

シラバス 目次
2019 年度入学生 (第 42 期生)

〈統合分野〉
看護の統合と実践Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67

授業科目、単位数および時間数

(看護専門課程 看護第2学科)

区分	教育内容	授業科目	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次	
					単位数	時間	単位数	時間	単位数	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1	30	1	30				
		統計学	1	30	1	30				
		文学	1	30	1	30				
	人間と人間生活 社会の理解	哲学	1	15	1	15				
		心理学	1	30	1	30				
		社会学	1	30	1	30				
		教育学	1	15	1	15				
		英語	1	30	1	30				
小計		8	210	8	210	0	0	0	0	
専門基礎分野	人間の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		解剖生理学Ⅱ	1	30	1	30				
		栄養と代謝	1	30	1	30				
	疾病の成り立ち と回復の促進	病態生理学Ⅰ	1	30	1	30				
		病態生理学Ⅱ	1	30			1	30		
		病態生理学Ⅲ	1	30			1	30		
		病態生理学Ⅳ	1	30			1	30		
		薬理学	1	30	1	30				
		微生物学	1	30	1	30				
	健康支援と 社会保障制度	レクリエーション論	1	30	1	30				
		公衆衛生	1	15	1	15				
		社会福祉	1	30	1	30				
		総合医療論	1	15	1	15				
		看護関係法令	1	15			1	15		
小計		14	375	10	270	4	105	0	0	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	1	30				
		看護学概論Ⅱ	1	15	1	15				
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30			1	30		
	臨地実習	基礎看護学実習	2	90			2	90		
小計		9	285	6	165	3	120	0	0	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30			1	30		
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30		
	小児看護学	小児看護学概論	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30		
	母性看護学	母性看護学概論	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30		
	精神看護学	精神看護学概論	1	30	1	30				
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30			1	30		
	臨地実習	成人看護学実習	2	90					2	90
		老年看護学実習	2	90					2	90
小児看護学実習		2	90					2	90	
母性看護学実習		2	90					2	90	
精神看護学実習		2	90					2	90	
小計		26	930	3	90	13	390	10	450	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	30			1	30		
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30			1	30		
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			1	30		
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	1	30	1	30				
		看護の統合と実践Ⅱ	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅲ	1	30			1	30		
		看護の統合と実践Ⅳ	1	30					1	30
	臨地実習	在宅看護論実習	2	90					2	90
		統合実習	2	90					2	90
小計		11	390	1	30	5	150	5	210	
合計			68	2190	28	765	25	765	15	660
教科外活動					322		72		88	162
総計					2512		837		853	822

科目別関連マトリクス I (病態生理学)

病態生理学Ⅱ<1単位:30時間>		病態生理学Ⅲ<1単位:30時間>		病態生理学Ⅳ<1単位:30時間>	
科目	系統	科目	系統	科目	系統
8	呼吸器	8	消化器	8	母性疾患
	循環器		内分泌		小児疾患
8	脳神経	6	腎・泌尿器	4	精神疾患
4	血液	6	腎・泌尿器	6	運動器疾患
8	呼吸器	8	消化器	8	母性疾患
8	循環器	6	内分泌	4	小児疾患
4	血液	6	腎・泌尿器	6	精神疾患
8	脳神経	6	感覚器	6	運動器疾患

※ 病態生理学Ⅳの終講試験は時間外に実施する

科目別関連マトリクスⅡ (疾患および症状)

系統(成人)	科目	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
呼吸器系 (8時間)	基礎看護学	肺結核 気胸、肺がん、慢性閉塞性肺疾患 気管支炎、気管支拡張症、肺動脈高血圧、肺水腫、呼吸困難	肺炎 沈下性肺炎、誤嚥性肺炎	肺炎 上気道炎、下気道炎	肺炎 上気道炎、下気道炎	慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患	慢性閉塞性肺疾患
循環器系 (8時間)	基礎看護学	心不全 胸痛、不整脈、ショック、浮腫、高血圧	虚血性心疾患 (心筋梗塞、狭心症)	先天性心疾患	先天性心疾患	性感染症 先天性風疹症候群	性感染症 先天性風疹症候群	性感染症 先天性風疹症候群
血液・造血器 感染症、アレルギー、膠原病 (4時間)	基礎看護学	白血球・悪性リンパ腫 全身性エリテマトーデス・後天性免疫不全症候群 播種性血管内凝固症候群 貧血、出血傾向	16α腎症 白血病、川崎病、膠原病 ウイルス感染症 発熱	16α腎症 白血病、川崎病、膠原病 ウイルス感染症 発熱	16α腎症 白血病、川崎病、膠原病 ウイルス感染症 発熱	性感染症 先天性風疹症候群	性感染症 先天性風疹症候群	性感染症 先天性風疹症候群
消化器系 (8時間)	基礎看護学	胃癌、大腸癌、食道癌 胃・十二指腸潰瘍 肝炎、肝硬変、肝臓癌、膵炎、胆石 薬下痢、嘔吐、嘔血、腹部膨満、吐血、下血、黄疸	腸重積症、急性虫垂炎 潰瘍性大腸炎、急性胃腸炎・ヒルシネオスプレジノ病 下痢、嘔吐、脱水	腸重積症、急性虫垂炎 潰瘍性大腸炎、急性胃腸炎・ヒルシネオスプレジノ病 下痢、嘔吐、脱水	腸重積症、急性虫垂炎 潰瘍性大腸炎、急性胃腸炎・ヒルシネオスプレジノ病 下痢、嘔吐、脱水	高ビリルビン血症	高ビリルビン血症	高ビリルビン血症
内分泌・代謝系 (6時間)	基礎看護学	甲状腺機能亢進症、低下症 下垂体、副腎皮質機能不全 糖尿病、痛風、メタボリック症候群 高血糖、低血糖、肥満、やせ	1型糖尿病 妊娠糖尿病	1型糖尿病 妊娠糖尿病	1型糖尿病 妊娠糖尿病	妊娠糖尿病	妊娠糖尿病	II型糖尿病
神経・精神系 (8時間)	基礎看護学	脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、脳腫瘍 意識障害、運動失調、感覚障害 けいれん、重篤内圧亢進症、感覚障害	老人性うつ・脳梗塞・認知症 パーキンソン病 痛み、せん妄	老人性うつ・脳梗塞・認知症 パーキンソン病 痛み、せん妄	老人性うつ・脳梗塞・認知症 パーキンソン病 痛み、せん妄	脳梗塞、脳性麻痺、ダウン症候群 けいれん 学習障害	脳梗塞、脳性麻痺、ダウン症候群 けいれん 学習障害	認知症・脳梗塞 (後遺症) 筋萎縮性側索硬化症
運動器系 (8時間)	基礎看護学	腰椎椎間板ヘルニア 骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折	先天性股関節脱臼 上脛骨顆上骨折
腎・泌尿器系 (6時間)	基礎看護学	腎不全、腎炎、ネフローゼ	前立腺肥大 尿失禁	前立腺肥大 尿失禁	前立腺肥大 尿失禁	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 腎盂腎炎	ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 腎盂腎炎	慢性腎不全
母性・女性生殖器系 (10時間)	基礎看護学	子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん 胎動異常、産前出血、産後出血、産後感染	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害	復古不全症、乳癌、子宮癌、卵巣癌 非葉腫瘍、子宮筋腫、乳腺炎、骨盤臓器脱、不妊症、更年期障害
老年・小児・感覚器系 (2時間)	基礎看護学	感覚機能障害	白内障、白癩、疥癬	アトピー性皮膚炎、斜視	アトピー性皮膚炎、斜視	アトピー性皮膚炎、斜視	アトピー性皮膚炎、斜視	アトピー性皮膚炎、斜視

科目別関連マトリクスⅢ(看護技術)

単元	科目	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
基本技術	安全・安楽	制働管理 スタンダードプリコーション 無菌操作	転倒予防、救急時の対応 看取りの看護	転倒予防、救急時の対応 看取りの看護	フレイル・シミュレーション 環境整備、輸液の固定法 サークルパットの取り扱い	新生児の抱かし方、抱き方 コットの移送	抑鬱、保護者の使用、保護衣 虐待の予防、転倒予防	看取りの看護
	コミュニケーション	コミュニケーションの基本、 援助的人間関係	聴覚のある人のコミュニケーション 失語障害・構音障害に対する 援助 認知症のある人のコミュニケーション	聴覚のある人のコミュニケーション 失語障害・構音障害に対する 援助 認知症のある人のコミュニケーション	見および家族とのコミュニケーション アタッチメント	母親とのコミュニケーション	患者-看護関係の相互作用 傾聴、共感、受容 コミュニケーション技法 ナラティブアプローチ プロセスレコード	家庭訪問 健康診査
	記録・記録・報告	フィジカルアセスメント スクリーニング 情報収集、観察方法、報告の 仕方 教育・支援	術後観察(バイタルサイン、合併 ケア-アアル、ドレーン) 生活指導、ホルモン療法生活指 インスリン自己注射指導	加齢変化の正常と異常、 精神機能評価、生活の自立度	インフォームドアセント 遊びの工夫	集団指導技術(母親学校、退院後 生活指導)、個人指導(生活指導) 育児指導 社会資源の活用	健康教育、健康指導 介護指導	在宅酸素療法、在宅人工呼吸 療法
日常生活の援助技術	呼吸	呼吸・呼吸音測定、吸入・吸引 酸素吸入	胸腔ドレーン 術後観察 人工呼吸療法	呼吸測定 呼吸アライメント	呼吸測定 呼吸アライメント	新生児の呼吸測定		褥瘡の処置 褥瘡透析の援助
	循環	血圧・脈拍測定 循環系フィジカルアセスメント		脈拍、血圧測定 マンシユエットの種類	新生児の心拍測定			
	体温	体温測定、電法	術後の保溫	体温測定	体温測定	新生児の体温測定		
	環境	室内環境の調整、 ベントメーキング 臥床患者のリネン交換	術後患者のベントメーキング クリーンルームの整備	生活機能に応じた病室整備	ベントメーキング	新生児室の環境調整 コットの環境整備		潔業環境
	活動・休息	ボディメカニクス、体位変換 移送 制働管理技術	歩行器、松葉杖、良肢位の保持 キブス固定・牽引中の機能訓練	杖歩行、視力障害のある人の 歩行介助、良肢位の保持、褥瘡性 症候群予防、生活リズム改善 IADL、ベッドからの離床	乳幼児の移送、抱き方、午睡 遊び	妊産婦体位 妊産婦の安楽な体位 産褥体位	レクリエーション、絵画、音楽 IADL、リハビリ	リハビリ
	食事・排泄	食事介助、食事形態の工夫 経管栄養、経静脈栄養 排便・排尿の介助、嚥下、 充腸、排便 膀胱留置カテーテル	IVH、胃ろう、排尿訓練、 口腔ケア、嚥下訓練 トイレ指導	嚥下障害のある人の食事介助 口腔ケア、嚥下訓練 トイレ指導	調乳、哺乳量 成長に合わせたトントレント交換 食事介助、乳幼児のオムツ交換	母乳栄養、乳房マッサージ、 乳管開通、搾乳、授乳交換、 哺乳、哺乳量測定、新生児の オムツ交換	摂食障害のある人への食事介助	経管栄養管理(経鼻、胃ろう 腸ろう) 膀胱留置カテーテル管理、 ストーマ管理、オムツ交換
	衣服・清潔	全身清拭、洗髪、手浴、足浴 洗面、整容、陰部洗浄 裏衣交換、衣類の選択	術前、術後の清潔 制働処理	乳幼児の清拭、入浴介助、 手洗、含嗽、衣類の選択	乳幼児の清拭、入浴介助、 手洗、含嗽、衣類の選択	新生児の衣類の選択 乳房の手当て 外陰部清拭、背蓋ケア 沐浴	身だしなみ、洗面、入浴、 更衣	家庭にあるものを利用した除菌 除菌洗浄、入浴介助 洗髪
	診察・検査	診察の介助、検査の介助	各診療科に特徴的な診察・ 検査		小児の尿血、採尿、身体測定 プレレコーション、ディストラクション 虐待の鑑別 シール固定、体位と支え方 小児の傷口と薬、輸液管理 経腸栄養、吸入	新生児の点眼 Kコンロップ内服	精神治療管理	薬物管理 IVH管理
	与薬	経口与薬、筋肉注射、皮下 注射、静脈内注射、輸液管理 麻酔、経皮与薬、IVH 輸液ポンプ、シリンジポンプ 看護過程のアロセス、 クリティカルシンキング リアクション						
	看護過程							

科目別関連マトリクスⅣ（経過別看護援助）

経過	科目	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
健康		健康教育 患者教育 ヘルスプロモーション	老人との接し方・交遊 栄養・運動・休息支援 施設内での日常生活援助 レクリエーション支援 成年後見制度 家族への支援・教育	環境との相互作用 発達課題の達成と成熟 基本的な生活習慣の獲得 健康の基盤作り 栄養の意義 健全な成長・発達 家族システム	女性のライフサイクル各期のヘルスプロモーション デイベロップメントケア 健康教育・保健指導 妊婦・産婦・褥婦への援助 新生児の栄養・排泄・清潔への援助	ヘルスプロモーション 障害者総合支援法 生活保護法 成年後見制度 日常生活支援事業 地域包括支援	介護保険制度 ケアマネジメント 地域包括支援 家族への支援	
急性期		生命の維持、改善の援助 苦痛の緩和 基本的ニーズの充足 治療(手術療法含む)・処置・検査時の援助 ストレス・危機状態への援助 術前指導、術後合併症のリスクマネジメント、麻酔方法による影響と援助、術後合併症の予防 ポデマイイメント支援	術後せん妄への援助	苦痛の緩和 症状別看護 緊急入院時の小児と家族 事故防止対策 周手術期看護	妊婦高血圧症候群の看護 妊娠糖尿病の看護 切迫流産・早産妊婦への看護 異常出血時の看護 産科シミュレーション時の看護 帝王切開術前後の看護 乳房ケア時の看護 新生児への看護(低血糖、体重減少、黄疸、嘔吐、腹部緊満時の看護)	高難関時の援助		
回復期		日常生活援助 治療・処置・検査時の援助 苦痛の緩和 二次障害の予防 ADLの指導・機能訓練 セルフマネジメント支援	日常生活援助 運動機能維持の援助 栄養状態への援助 事故防止対策 処置・検査時の援助 家族の支援・教育 他職種との連携 社会資源の活用 QOL向上の援助	健康問題が小児と家族に与える影響 健康な成長と発達の援助 事故防止対策 日常生活援助 セルフケア能力の育成 社会資源の活用	出生直後の新生児の援助	社会資源の活用 対人交流への援助 日常生活の援助 日常生活の自立への援助 家族の支援・教育 他職種との連携 治療的人間関係の構築	日常生活の援助 健康保持・増進の援助・指導 機能訓練 家族の支援 他職種との連携 地域との連携 社会資源の活用 QOL維持向上への支援	
慢性期		病期の受容への援助 生活習慣変更のための健康教育 社会生活適応のための援助 セルフケア能力獲得の援助	身体的苦痛の緩和 精神的苦痛の緩和 社会的苦痛の緩和 霊的苦痛の緩和 家族との調整・支援	症状・苦痛・不安への看護 小児を亡くした家族への援助 デスエデュケーション	障害をもつ児を出産した親への援助	グリーフケア 看取りの看護		
終末期		緩和ケア ターミナルケア グリーフケア	エンパワーメント ストレンジスモデル ICFモデル コンフォート理論	ピアジェ認知発達理論 ボウルビー・アタッチメント理論 マラーラ一分離固体化理論 エリクソン ハヴ・イガースト	リプロダクティブヘルス・ライツに基づく発達理論 ルーベンの母性論 ルーベンの母性論	グリーフケア 看取りの看護	家族論 オレムセルフケア理論 ICFモデル ストレングスモデル	
看護理論		マズロー、ゴードン オレムセルフケア理論 トラバール、ロイ、バーナード ハンダーソン ナイチンゲール	ハヴ・イガースト、エリクソン エンパワーメント ストレングスモデル ICFモデル コンフォート理論	ピアジェ認知発達理論 ボウルビー・アタッチメント理論 マラーラ一分離固体化理論 エリクソン ハヴ・イガースト	リプロダクティブヘルス・ライツに基づく発達理論 ルーベンの母性論 ルーベンの母性論	危険理論 人間関係論(ヘブロー、トラバール、ウェーデンバック) ストレス理論・ストレングス理論 セルフケア理論(オレム・アンダーワット理論) エリクソン、バンチエーラ リカバリー、レジリエンス	オレムセルフケア理論 ICFモデル ストレングスモデル	

科目別関連マトリクスV (看護過程)

科目 経過	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	在宅看護論
対象	52歳 女性	46歳 男性	85歳 女性	8か月 女児	32歳 女性	28歳 男性	78歳 男性
段階 到達	中年期	壮年期	老年期	乳児期	成人期	青年期	老年期
(健康 段階 障害 段階)	心不全	胃癌 (急性期)	脳梗塞、高血圧	肺炎	初産婦	統合失調症 (亜急性期)	糖尿病性腎症 (慢性期) 〈透析導入前〉 糖尿病性網膜症
各領域 の特徴	<ul style="list-style-type: none"> 看護過程の基礎、ゴードンのパターンの理解と活用方法を理解し、ハンドブックに基づいて看護診断をあげる 01、1P、2Pの理解 	<ul style="list-style-type: none"> 成人期の特徴 手術を受ける患者の特徴 周手術期の看護 共同問題の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の身体的特徴 高齢者の健康障害の特徴 退院後の不安 家族への関わり 	<ul style="list-style-type: none"> 小児の成長発達 小児の健康障害の特徴 家族看護 	<ul style="list-style-type: none"> 周産期 新生児期 	<ul style="list-style-type: none"> 精神症状の日常生活行動への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 生活者としての在宅療養者 療養者・家族へのセルフケアの支援
学ば せたい 看護の 内容	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントの枠組みに沿った情報の整理 情報の意味を考える(解釈・分析)、関連図を活用した全体像の把握 看護診断の推論、照合の方法 看護診断の優先順位の設定 看護計画の記載方法 	<ul style="list-style-type: none"> 壮年期の特徴 役割、病気や治療に対する認識 胃癌または大腸癌の特徴から予測される合併症、二次障害 手術による身体侵襲、機能の変化について理解する 術後の回復に向けての援助(個別性をふまえる) 退院後の生活に向けて、自己管理と社会生活への適応について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の持てる力を維持・継続させ、潜在化している力の顕在化 老年期の発達段階をふまえて、人生観を尊重する思考 生活行動モデルの視点もふまえ、高齢者を促せる 生活環境にはたらきかけ、目標志向型志向を学習する。 その人が望む人生の統合に向けての支援 	<ul style="list-style-type: none"> 疾患の理解 小児に多い呼吸器系疾患の看護 症状別看護 小児における疾病の経過とその看護 入院に伴う子どもとその家族への影響 情報を分析し、必要な看護を導き出すこと 発達段階に応じた日常生活援助 実践可能な計画の立案 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠・分娩・産褥・新生児期のアセスメント 正常から逸脱を予防する看護 母親となった女性の持てる力の発揮を促進する看護 	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害が日常生活に及ぼす影響の理解 入院生活や環境が精神状態に及ぼす影響の理解 対象を傾聴する看護 対象の日常生活を整える看護 	<ul style="list-style-type: none"> 在宅における看護過程の特徴 療養者と家族を一つの単位として支援する必要性 生活環境と生活状況を知る必要性 在宅における生活支援の方法 療養者と家族を支援する保健・医療・福祉サービス 在宅ケアチームにおける看護職及び他職種との役割と連携・協働の必要性

基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
物理学		1 単位 (30 時間)	中田 拓人	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
身近な器具や検査法、技術を例に取り上げながら、看護学と物理学の関わりを学び、物理学的原理の理解を深める。また、看護の非常事態にも論理的に考え解決する能力を身につける。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	物理学に用いる基本数学		
2	4	移動動作に必要な力の加減		
3		体位変換に役立つトルクの知識		
4	2	安定・不安定 力学を人体に適用する		
5	2	体液の産生と喪失のバランス		
6	2	胃洗浄とサイフォン		
7	2	圧力の基礎知識 動圧と静圧の関係性		
8	2	低圧持続吸引装置の原理		
9	2	酸素と圧力の関係およびその性質		
10	2	点滴や輸血、経管栄養を行う際の液体の滴下速度		
11	4	酸・アルカリと pH の関係		
12				
13	4	濃度の表し方と物質の溶け方		
14				
15	2	終講試験／まとめ		
【教科書・参考書・参考資料等】				
系統看護学講座 基礎分野 物理学 医学書院				
【評価の方法】				
レポート、授業態度及び試験の結果による総合評価				

基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
統計学		1 単位 (30 時間)	宮本 孝志 尾形 尚子	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究に必要な基本的データの整理の仕方や統計資料の解釈について理解する。 ・看護業務で使用する際に必要となるパソコンの基楚的な知識とアプリケーションソフト (ワード・エクセル・プレゼンテーション) の基本的な操作を習得する。さらに、それらを用いて簡単な資料を作成する。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	パソコンの基本的な知識と基本的な操作 (マウス操作・文字入力)		
2	2	ワードの概要と基本的な操作 (文字装飾・テキストボックス・ワードアート・クリップアート) と資料作成		
3	2	エクセルの概要と基本的な操作 (九・九の表作成と成績表作成と偏差値の計算)		
4	2	エクセルを用いて身長 of データを入力して、度数分布表を作成し、分散と標準偏差を求める。		
5	2	エクセルを用いて体重・身長 of データを入力して BMI を求め、そのヒストグラムを作成する。		
6	2	パワーポイントの概要と基本操作 (文字の装飾・図形・グラフ・あみだくじ)		
7	2	パワーポイントを用いたプレゼンテーションの説明		
8	2	図示法、集団を表す代表的な数値 (平均、分散、標準偏差 等) について学習する。		
9	2	母集団と標本の概念、正規分布などの確率分布について学習する。		
10	2	区間推定の基本的な考え方を理解する。		
11	2	検定に必要な概念 (帰無仮説、対立仮説、有意水準 等) を理解する。		
12	2	平均値の検定、カイ 2 乗検定 (分割表の独立性、適合度の検定 等) について学習する。		
13	2	エクセルを利用した演習 (度数分布表、ヒストグラムの作成、平均、分散、標準偏差)		
14	2	エクセルを利用した演習 (推定、検定、散布図)		
15	2	試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
系統看護学講座 基礎分野 統計学 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験、演習課題、出席状況等				
【学生へのコメント】				
パソコンは非常に便利な「道具」です。				
いろいろな使い方を学んで、総合的に活用できる能力を身につけてください。				

基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
文 学		1 単位 (30 時間)	多田 英泰	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
いくつかの文学作品をとおしてわたしたちにとって文学とは何かを考えるとともに、文法的な規則の学習を併用しながら、文章が魅力的であるとはどういうことか、文章にとって美とは何かについて考えていきたい。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	プロローグ 文学とは何か		
2	4	芥川龍之介を読む		
3				
4	2	文章講座 1 主語―述語関係		
5	4	松尾芭蕉を読む		
6				
7	2	文章講座 2 体言と用言		
8	4	寺山修司を読む		
9				
10	2	文章講座 3 連体修飾と連用修飾		
11	4	西脇順三郎を読む		
12				
13	2	文章講座 4 接続関係		
14	2	エピローグ あなたの文学 わたしたちの文学		
15	2	試験		
【教科書】【参考書】				
毎回こちらで資料を用意します。				
【評価の方法】				
授業態度・課題の提出状況・試験結果等をもとに総合的に判断します。				

基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
哲 学		1 単位（15 時間）	能川 元一	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】 人間存在についての幅広く全人的な視野を獲得し、一人ひとりの人に関わることの意味や態度、人間の尊厳について理解する。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	倫理学の基本的な原理を学ぶ。功利主義と義務論について。		
2	2	倫理学の基本的な原理を学ぶ。功利主義と義務論（続き）。J・ロールズの「無知のヴェール」と「格差原理」について。		
3	2	アリストテレスの説く「中庸」について。		
4	2	「人間らしさ」の重要な要素と考えられてきた「自律性」について考える。		
5	2	人間の自律性と尊厳の関係、「自律的な存在」という人間観が私たちの暮らし社会のさまざまな制度に反映されていることを学ぶ。		
6	2	人間の自律性に関する科学的な知見をふまえて、自律性を再考する。		
7	2	倫理の普遍性と人間の自律性をめぐる、現代思想の考察について紹介する。		
8	1	試験		
【教科書】 使用しません 【参考書、参考資料等】 準備します				
【評価の方法】 終講試験および授業態度等総合的に判断します。				

基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
心理学		1単位 (30時間)	金森 博之	1年次 前期
【授業の概要および目標】				
心理学全般の基礎知識をもとに人の心理に関するさまざまな考えかたの理解、および自己理解、他者理解とともに看護場面における心理的援助について学ぶ。				
授業計画		授業内容		
回	時間			
1	6	オリエンテーション	第1章 心理学とは	第2章 感覚と知覚
2		第3章 記憶	第4章 思考・言語・知能	第5章 学習
3		第6章 感情と動機づけ	第8章 社会と集団	
4	4	第7章 性格とパーソナリティ		
5				
6	6	第9章 発達		
7				
8				
9	4	第10章 心理臨床		
10				
11	6	第11章 医療・看護の心理		
12				
13				
14	2	第10章 心理臨床		
15	2	試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 その他、必要に応じて配布いたします。				
【評価の方法】				
授業中に実施するレポートおよび、小テスト、終講試験を総合的に評価します。				
【学生へのコメント】				
積極的な授業への参加を求めます。 授業内容について変更の可能性があります、その際は授業内でお知らせします。				

基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
社会学		1 単位（30 時間）	佐野 光彦	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
1. 現代社会の構造や社会的存在としての人間を理解するとともに多様な社会の中で、幅広いものの見方ができる能力を養う。				
2. 人間の社会的行為と相互行為、個人と社会、社会と文化等の関係を学び、人間学的ものの見方・考え方を理解する。				
3. 社会学を学ぶことにより、人間関係にかかわる諸問題と深さを理解し、人間関係が円滑に図れる能力を養う。				
4. 国際的な視野をもって現代社会の問題について知る。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	社会科学とは何か？社会学とは何か？		
2	2	環境問題、何が問題か？		
3	2	医療過誤問題、何が問題か？		
4	2	薬害問題、何が問題か？		
5	2	健康格差問題－医療制度改革、リハビリ打ち切り問題		
6	2	学校崩壊－小学1年生問題、いじめ問題、学力低下		
7	2	家庭崩壊－子ども虐待、親殺し、介護放棄		
8	2	差別と人権－バングラデシュの清掃人問題		
9	2	青年問題①－ひきこもり、フリーター、ニート		
10	2	青年問題②－若者はなぜ3年で辞めるのか？		
11	2	変わる日本社会－雇用問題、非正社員		
12	2	メディアと社会－ねつ造問題、メディア・リテラシー		
13	2	男と女の問題①－少子高齢化、離婚率上昇、変質する夫婦観、生殖医療の限界（代理出産など）		
14	2	男と女の問題②－ジェンダー問題		
15	2	終講試験		
【教科書】【参考書】				
教科書は、使用しません。				
参考図書は、講義中に提示します。				
【評価の方法】				
出席率・講義への参加意欲・終講試験				

基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
教育学		1単位（15時間）	金森 博之	1年次 後期
【授業の概要および目標】 教育学の基礎や本質を学ぶとともに、看護における教育活動に応用できる能力を養います。 授業は、講義だけではなくワークショップを交えながら実施します。				
授業計画		授業内容		
回	時間			
1	2	教育学とは 看護と教育学 ケアと人間形成 出会いとしての学び		
2	2	特別なニーズを持つ人へのサポートについて（発達障害の理解と支援）		
3	2	グリーフケアの理論と現状（家族・遺族へのグリーフケア）		
4	2	看護師のためのグリーフケア		
5	2	看護の現場で活かせるカウンセリングマインド		
6	2	カウンセリングの技法（そのⅠ）		
7	2	カウンセリングの技法（そのⅡ）		
8	1	試験		
【教科書】 教科書は使用せず、資料を配布します。				
【参考書、参考資料等】 参考文献は、授業中随時紹介します。				
【評価の方法】 授業態度・提出物・レポート・筆記試験等で総合的に評価します。				

基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
英語		1 単位 (30 時間)	Adrian・Webber	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】 To use English to explain about basic medical conditions.				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	Unit 1 - Basic expressions		
2	2	Unit 2 - Simple Questions/Answers		
3	2	Unit 3 - Practice with numbers		
4	2	Unit 4 - Medical terms		
5	2	Unit 5 - Directions		
6	2	Unit 5 - Hospital Departments		
7	2	Unit 6 - Questions about symptoms		
8	2	Unit 6 - Explaining about symptoms		
9	2	Unit 7 - Medical terms		
10	2	Unit 8 - Asking about Medical conditions		
11	2	Unit 8 - Explaining about Medical conditions		
12	2	Unit 9 - types of medicine		
13	2	Unit 10 - More medical terms		
14	2	Unit 11 - Explaining about treatment		
15	2	Unit 12 - conversations with a patient		Final Test
【教科書】 クリスティーンのやさしい看護英会話				
【評価の方法】 Final Test				
【学生へのコメント】 Please fan to study about English in medical situations.				

専門基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
解剖生理学 I		1 単位 (30 時間)	宮田 信吾	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の形態と構造を学び、これを基礎として健康な生活を営むために必要な器官の役割と機能についての理解を深める。 ・ 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解を深める。 				
担当講師の実務経験		大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	4	生命とは		
2				
3	4	生体の防御機構		
4				
5	4	血液の機能		
6				
7	4	流通路としての循環系		
8				
9	4	神経性調節と刺激の受容		
10				
11	4	感覚器の機能		
12				
13	4	皮膚と膜の機能		
14				
15	2	試験		
【教科書】				
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院				
【コメント】				
各章ごとに確認のため小テストをおこないます。(成績評価の対象ではありません)				
【評価の方法】				
出席、筆記試験による総合評価				

専門基礎分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
解剖生理学Ⅱ		1 単位 (30 時間)	宮田 信吾	1 年次 前期
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人体の形態と構造を学び、これを基礎として健康な生活を営むために必要な器官の役割と機能についての理解を深める。 ・ 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体について理解を深める。 				
担当講師の実務経験		大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	4	液性調節 (内分泌系)		
2				
3	4	骨格系		
4				
5	4	生活行動を支える運動器系		
6				
7	4	呼吸の機構		
8				
9	4	栄養摂取の機構		
10				
11	4	排泄の機構		
12				
13	4	性と生殖に関する機構		
14				
15	2	試験		
【教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院				
【コメント】 各章ごとに確認のため小テストをおこないます。(成績評価の対象ではありません)				
【評価の方法】 出席、筆記試験による総合評価				

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期								
栄養と代謝	1 単位（30 時間）	朴 雅美 松原 由香里	1 年次 後 期								
【授業の概要および目標】											
<p>生命の維持に必要な栄養素を学び、その代謝機構について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命維持に必要な栄養素の種類と役割を理解する。 ・健康維持・病気予防のための食物・栄養の機能を理解する。 ・栄養素の代謝と代謝病について理解する。 											
担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師と、病院において管理栄養士として従事する講師が担当する。										
授業計画		授 業 内 容									
回	時間										
1	2	代謝（生化学）とはどういう学問か。 化学の基礎知識・細胞の構造と機能	朴								
2	2	糖質・脂質									
3	2	アミノ酸とタンパク質・酵素									
4	2	核酸・ヌクレオチドとその代謝、水と無機質									
5	2	生体エネルギーと糖質代謝 1									
6	2	生体エネルギーと糖質代謝 2									
7	2	ビタミン									
8	2	脂質代謝									
9	2	タンパク質とアミノ酸の代謝、ポルフィリンの代謝									
10	2	遺伝情報									
11	2	代謝異常・先天性疾患									
12	2	総復習・生化学関連の国家試験問題解説									
13	2	<table border="0"> <tr> <td>食品とエネルギー代謝</td> <td>栄養ケア・マネジメント</td> </tr> <tr> <td>・食品のエネルギーとその測定</td> <td>・エネルギー消費量の算出</td> </tr> <tr> <td>日本人の食事摂取基準の概要</td> <td>・栄養ケア・マネジメントとは</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・栄養ケア・マネジメントの構造</td> </tr> </table>	食品とエネルギー代謝	栄養ケア・マネジメント	・食品のエネルギーとその測定	・エネルギー消費量の算出	日本人の食事摂取基準の概要	・栄養ケア・マネジメントとは		・栄養ケア・マネジメントの構造	松原
食品とエネルギー代謝	栄養ケア・マネジメント										
・食品のエネルギーとその測定	・エネルギー消費量の算出										
日本人の食事摂取基準の概要	・栄養ケア・マネジメントとは										
	・栄養ケア・マネジメントの構造										
14	2	<table border="0"> <tr> <td>栄養アセスメントの方法</td> </tr> <tr> <td>・検査のための食事</td> </tr> <tr> <td>・治療による回復を促すための食事</td> </tr> <tr> <td>・疾患を治療するための食事</td> </tr> </table>	栄養アセスメントの方法	・検査のための食事	・治療による回復を促すための食事	・疾患を治療するための食事					
栄養アセスメントの方法											
・検査のための食事											
・治療による回復を促すための食事											
・疾患を治療するための食事											
15	2	試験									
【教科書・参考書、参考資料等】											
系統看護学講座	専門基礎分野	生化学	医学書院								
系統看護学講座	専門基礎分野	栄養学	医学書院								

【評価の方法】 講義の 2/3 以上の出席、授業態度および試験の結果による総合評価

【学生へのコメント】

生化学・栄養学は生体機能の基礎となるものです。基礎知識として、中学の理科（生物と化学）を本やネットなどで各自復習した上で講義に臨んで下さい。

専門基礎分野

授業科目名	単位 (時間数)	担当講師名	時期
病態生理学 I	1 単位 (30 時間)	山本 隆宣	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】			
1. 臓器・組織を越え、共通してみられる病変の成立機序およびその病因・種類・転帰等を理解する。 それらがどのような身体機能の異常に繋がるかを重点的に理解する。			
2. 主要な症状・徴候の原因・病態生理を理解し、その対応や対処の原則を理解する。			
担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。		
授業計画	授 業 内 容		
回			
1	2	序論、体液の異常：水・電解質バランス	
2	2	体液の異常：体液調節に関わるホルモン、酸・塩基平衡	
3	2	脱水、浮腫、腹水	
4	2	血行障害：うっ血、血栓、塞栓、梗塞、静脈瘤	
5	2	血行障害：狭心症、心筋梗塞、胸痛、ショック、レイノー症状	
6	2	炎症と修復、免疫：免疫系の働きと調節	
7	2	免疫疾患、感染：感染の成立機構	
8	2	変性・壊死・アポトーシス・萎縮・老化	
9	2	腫瘍と過形成：悪性腫瘍の発生	
10	2	悪性腫瘍の転移、治療、リンパ腫脹	
11	2	先天異常、代謝異常	
12	2	嘔気・嘔吐、咯血と吐血、黄疸	
13	2	痛みの病態生理、頭痛、腹痛	
14	2	意識障害、発熱、呼吸困難、咳	
15	2	試験	
【教科書・参考書、参考資料等】			
『系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学』 医学書院			
『イメージできる病態生理学』メディカ出版			
【評価の方法】			
筆記試験を実施、試験問題は国家試験の形式である。出席と筆記試験。			
【学生へのコメント】			
生体の構造・機能を良く理解していないと、病変の成立機構・身体機能の異常を十分理解できないので、解剖生理学をよく勉強しておいて下さい。			

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
薬理学	1 単位（30 時間）	水口 博之	1 年次 前期・後期
<p>【授業の概要および目標】</p> <p>薬の生体への作用を系統的に学習する。これらの知識を基にこの疾患の治療に何故これらの薬が使われているかを理解する。</p> <p>薬の適正使用の考え方を身につけ、薬物療法における患者の安全確保を図る。</p>			
担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事している講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容	
回	時間		
1	2	序論、末梢神経に作用する薬物 I－交感神経作用薬	
2	2	末梢神経に作用する薬物 II－副交感神経作用薬	
3	2	総論－医薬品、薬が世にでるまで	
4	2	薬の作用原理と体内動態（ADME）	
5	2	中枢神経系に作用する薬物 I：麻酔薬、抗てんかん薬、パーキンソン薬	
6	2	中枢神経系疾患に使用する薬 II：向精神薬	
7	2	がん・痛みに使用する薬	
8	2	感染症に使用する薬	
9	2	循環器系に作用する薬物 I：高血圧、狭心症、心筋梗塞	
10	2	循環器系に作用する薬物 II：不整脈、心不全	
11	2	救命救急時に使用する薬	
12	2	アレルギー疾患（喘息など）、免疫疾患などに使用する薬	
13	2	消化器系疾患に使用する薬	
14	2	その他疾患：腎臓、内分泌障害等	
15	2	試験	
<p>【教科書・参考書、参考資料等】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院</p>			
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験を実施、試験問題は国家試験の形式である。出席と筆記試験。</p>			
<p>【学生へのコメント】</p> <p>生体の構造・機能を良く理解していないと薬物の作用、臨床への応用が分からないので、生理学を特に勉強しておいて下さい。</p>			

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
微生物学		1 単位（30 時間）	柴多 涉	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・微生物の特徴と感染・発症を学び、それらが生体に及ぼす影響についての理解を深める。 ・感染症とその予防・消毒法について理解を深め、看護師の役割と責任を自覚する。 				
担当講師の実務経験		病院において医師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	微生物の種類と特徴		
2	2	微生物の生体への感染および感染経路		
3	2	生体の防御機構		
4	2	予防接種と血清療法		
5	2	感染症の検査と治療、薬剤耐性菌（AMR）		
6	2	呼吸器感染症		
7	2	消化器感染症		
8	2	肝炎、腎・泌尿器感染症		
9	2	心臓・血管内感染症、中枢神経感染症		
10	2	皮膚・軟部組織感染症、高齢者の感染症、日和見感染症		
11	2	性感染症、母子感染症		
12	2	小児感染症、発疹性のウイルス感染症、学校保健		
13	2	人獣共通感染症、寄生虫感染症		
14	2	医療関連感染とその予防、滅菌と消毒		
15	2	試験		
【教科書】				
系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院				
【参考書、参考資料等】				
『標準微生物学』医学書院、 『戸田新細菌学』南山堂				
【評価の方法】				
筆記試験				

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
レクリエーション論		1 単位（30 時間）	城井 佳子	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
レクリエーションを通して、人々の健康を養う。 レクリエーションが健康にとって果たす意味を理解するとともに、主な代替療法のアロマセラピーと音楽療法を体験的に学ぶ。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・看護における代替療法を知る ・音楽療法概論（定義・歴史・作用） 		
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法の対象と実践（精神疾患） 		
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法の対象と実践①（高齢者・認知症） 		
4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽療法の対象と実践②（高齢者・認知症） 		
5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・アロマセラピー概論：aroma therapy が健康にとっての意味を知る ・アロマセラピー各論：精油の効果、精油の人体吸収と作用経路、精油に関する基礎知識、精油の使い方、成分分類と特性 		
6	2	<ul style="list-style-type: none"> ・精油の使い方 ・自分の好きな香りと苦手な香りを知る ・アレルギーテスト 		
7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・手浴、足浴、吸入の実習①（実習室） 		
8	2	<ul style="list-style-type: none"> ・手浴、足浴、吸入の実習②（実習室） 		
9	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルトリートメントについて ・オイルトリートメントをするにはどうしてキャリアオイルが必要なのか ・キャリアオイルについて 		
10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルトリートメントの実習①（自分自身を Care する）（実習室） 		
11	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルトリートメントの実習②（患者さまに Care する）（実習室） 		
12	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オイルトリートメントの実習③（患者さまに Care する）（実習室） 		
13	2	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の恒常をはかる ・看護とアロマセラピー 		
14	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドトリートメントの実習 		
15	2	<ul style="list-style-type: none"> ・試験 		

【教科書・参考書、参考資料等】

毎授業ごとに資料を配布

【評価の方法】

レポート、筆記試験

【学生へのコメント】

フロレンス・ナイチンゲールが「治癒はケアにあり」と記しているように、病気の回復には単に医療的介入だけでは不可能です。そのために、あらゆる技術を駆使しなければなりません。アロマセラピーや音楽療法はこれらの目的のための看護技術の一つと考えられます。アロマセラピーには、香りを嗅ぐということと、マッサージによる患者へのタッチングという基本的な看護技術の要素が含まれており、看護介入の一つとして、非常に有用です。本講義はリラクゼーションやリフレッシュに役立つ基礎知識と実践できる能力を養い楽しく学ぶことができます。また、さまざまな健康状態にある対象をホリスティックにとらえ身体・精神の恒常をはかります。

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
公衆衛生		1単位（15時間）	小畑 俊男	1年次前期
【授業の概要および目標】				
疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために活用される科学的手法の理解を深める。				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	公衆衛生の理念 公衆衛生の技術		
2	2	医療の動向と医療保障 公衆衛生と国際化		
3	2	地域保健 母子保健		
4	2	学校保健 成人・老人保健		
5	2	精神保健 難病保健		
6	2	生活環境 産業保健		
7	2	感染症・危機管理 まとめ		
8	1	試験		
【教科書、参考書、参考資料等】				
系統看護学講座 専門基礎〔8〕健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験				

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
社会福祉		1 単位（30 時間）	孫 応霞	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉について、理念・制度および活動から総合的に理解する。 ・ 社会福祉の問題を現代日本の生活構造とあわせて把握する。 ・ 看護と福祉の関係性を学び、他職種連携の実際を理解する。 ・ 自身で感じたことや考えたことを言語化して他者に伝えることを通して、多様な意見を取り込みながら、授業内容を理解する。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	社会福祉とはなにか ー身近な例からイメージする（グループワーク含む）ー		
2	2	社会福祉、社会保障の動向		
3	2	社会保障（社会保険）制度 （年金制度／医療保険）		
4	2	社会保障（社会保険）制度 （雇用保険／労災保険）		
5	2	子ども・家庭福祉		
6	2	映画鑑賞（ワーク含む）		
7	2	公的扶助（生活保護制度）		
8	2	障害（児）者福祉		
9	2	高齢者と福祉①（高齢者福祉の動向）		
10	2	高齢者と福祉②（介護保険制度を中心に）		
11	2	ソーシャルワークとその実践①（地域福祉の内容含む）		
12	2	ソーシャルワークとその実践②（グループワーク）		
13	2	まとめ①		
14	2	まとめ②		
15	2	試験		
【教科書】				
系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験				

専門基礎分野

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
総合医療論	1単位（15時間）	山本 隆宣	1年次 前期
【授業の概要および目標】 現代の保健・医療・福祉の現状とその問題を理解し、看護職として人々の健康の維持・増進に貢献できる能力を養う。			
担当講師の実務経験	大学研究機関において講義関連分野の研究に従事している講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容	
回	時間		
1	2	医学・医療のあゆみ	
2	2	健康と疾病	
3	2	医学と医療	
4	2	医学と医療	
5	2	我が国の医療供給体制	
6	2	現代医療の諸問題	
7	2	現代医療の諸問題	
8	1	終講試験	
【教科書・参考書、参考資料等】 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院 国民衛生の動向 2018/2019 厚生労働統計協会			
【評価の方法】 出席状況、授業態度および試験の結果による総合評価			
【学生へのコメント】 医療従事者に求められる倫理性や社会的使命を習得するために国民衛生の動向（厚生労働統計協会）の読書を勧める。また、社会について理解を深める。			

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
看護学概論 I		1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
【概要】 自己の「看護観」を育て、看護実践・看護研究に活かす。				
【目標】 1. 看護を学ぶ学習者としての基本的な考え方を身につける。				
2. 看護の対象、看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。				
3. 統計や施策、国際情勢など幅広い視野から看護について考える。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	看護とは①		
2	2	看護とは②		
3	2	看護の対象の理解①		
4	2	看護の対象の理解②		
5	2	国民の健康状態と生活①		
6	2	国民の健康状態と生活②		
7	2	看護の提供者①		
8	2	看護の提供者②		
9	2	看護における倫理①		
10	2	看護における倫理②		
11	2	看護の提供のしくみ①		
12	2	看護の提供の仕組み②		
13	2	広がる看護の活動領域①		
14	2	広がる看護の活動領域②		
15	2	終講試験		
【教科書】 系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院				
【評価の方法】 終講試験・課題レポート・出席状況・学習態度から総合的に評価する				

専門分野 I

授業科目名		時間数	担当講師名	時期
看護学概論Ⅱ		1 単位 (15 時間)	神藤 めぐみ	1 年次 前期・後期
【授業の概要】				
倫理学・生命倫理学・看護倫理の基礎を学び、看護の現場で生じる倫理的課題に対処できる能力を養う。				
【目標】				
1、倫理について関心を持ち、気づき自ら学ぶことができる。				
2、看護の現場に生じる倫理的な意味や課題に気づく感受性を養う。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	なぜ倫理を学ぶのか 倫理学の基本的な考え方		
2	2	生命倫理 性と生殖の生命倫理		
3	2	死の生命倫理		
4	2	先端医療と制度をめぐる生命倫理		
5	2	看護倫理とは		
6	2	専門職の倫理 看護研究の倫理		
7	2	倫理的課題へのアプローチ		
8	2	終講試験		
【教科書・参考書, 参考資料等】				
系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
【評価の方法】				
授業への取り組みの姿勢、終講試験、レポートなど総合的に判断する				

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
基礎看護学方法論 I		1 単位 (30 時間)	黒川 知恵	1 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術とは何か、看護技術に共通して求められる安全・安楽・自立・個別性について理解する。 ・ 効果的なコミュニケーション技術について理解する。 ・ フィジカルアセスメントの必要性と方法を理解し、対象に必要な看護援助を考える。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	看護技術とは		
2	2	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程		
3	2	3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本		
4	2	4. 効果的なコミュニケーションの実際 5. コミュニケーション障害への対応		
5	4	【演習】ロールプレイング		
6				
7	2	1. スクリーニング技術の構成・必要性 2. フィジカルアセスメントの意義と必要性		
8	2	3. フィジカルアセスメントの基本原則と基本技術		
9	2	4. バイタルサインの意義、全身状態のアセスメント、生体機能管理 5. 系統別のアセスメント		
10	4	【講義】【演習】バイタルサイン測定の基本技術 呼吸器系のフィジカルアセスメント		
11				
12	4	【講義】【演習】呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント		
13				
14	2	【実技試験】フィジカルアセスメント		
15	2	試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I、医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験と演習への参加およびレポート内容				

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
基礎看護学方法論 II		1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ	1 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の意義と方法を理解し習得することで、問題解決型思考を培う。 ・看護診断を用い看護問題を特定することで適切な看護介入につなげる能力を養う。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	1. 看護記録		
2	4	2. 看護過程とは		
3		3. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 4. 看護過程の各段階		
4	2	5. 事例展開①：情報収集 1) アセスメントの枠組み：フェイスシート、データベース		
5	2	5. 事例展開②：健康知覚／健康管理パターン、看護診断		
6	2	5. 事例展開③：栄養／代謝パターン、看護診断		
7	2	5. 事例展開④：排泄パターン、看護診断		
8	2	5. 事例展開⑤：活動／運動パターン、看護診断		
9	2	5. 事例展開⑥：睡眠／休息パターン、認知／、知覚パターン、看護診断		
10	2	5. 事例展開⑦：自己知覚／自己概念パターン、役割／関係パターン、看護診断		
11	2	5. 事例展開⑧：セクシャリティ／生殖パターン コーピング／ストレス耐性パターン、価値／信念パターン 看護診断		
12	2	5. 事例展開⑨：関連図、問題リスト		
13	2			
14	2	5. 事例展開⑩：看護計画立案		
15	2	終講試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I』 医学書院				
リンダ J カルペニート『看護診断ハンドブック』医学書院				
『看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント』Gakken				
【評価の方法】				
筆記試験、看護過程技術演習				
【学生へのコメント】				
看護過程は問題解決型思考を駆使して、看護問題をアセスメントするものなのです。主体的に学習を進めるようにして下さい。また質問をし、提出期限を守ることが大切です。				

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
基礎看護学方法論Ⅲ		1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ 眞栄里 直美 深津 起代子 松原 希実子	1 年次 前期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・環境の概念と人間にとって環境を整えることの意義を理解したうえで、病床の環境を適切に整えるためのアセスメント方法・援助技術を理解する。 ・人間にとっての清潔・衣生活の意義を理解したうえで、対象者の清潔に関するニーズをアセスメントし、適切な援助方法を選択できる能力を養う。 ・人間にとっての食事・栄養の意義を理解し、健康レベルや食行動の自立度に応じた栄養と食事のニーズをアセスメントし、効果的な援助方法を選択できる能力を養う。 ・人間の排泄を理解し、対象が健康的な生活を送るための必要な援助方法を選択できる能力を養う。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	1. 環境調整技術 (第 1 章) 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際		神藤
2	2	2. 清潔・衣服援助技術 (第 6 章) 1) 清潔の援助 2) 病床での衣生活の援助		眞栄里
3	2			
4	2			
5	2	事例を用いて援助方法を考える (手浴・足浴) グループワーク		
6	2	【技術演習】環境調整技術・清潔・衣服援助技術 (手浴・足浴)		
7	2	事例を用いて援助方法を考える (清 拭) グループワーク		
8	2	【技術演習】環境調整技術・清潔・衣服援助技術 (清 拭))		
9	2	事例を用いて援助方法を考える (洗 髪) グループワーク		
10	2	【技術演習】環境調整技術・清潔・衣服援助技術 (洗 髪)		
11	2	3. 食事援助技術 (第 2 章)		
12	2	4. 排泄援助技術 (第 3 章)		
13	2	【演習】食事介助、排泄介助		
14	2	【OSCE①】 コミュニケーション、観察、環境調整方法、清潔・衣服		松 原

15	2	終講試験
<p>【教科書、参考書、参考資料等】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ、医学書院 終講試験</p>		
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験、OSCE①</p>		

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
基礎看護学方法論Ⅳ		1 単位 (30 時間)	菅原 悠太 松原 希実子 鎌田 みどり	1 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠に基づいた安全で安楽な看護技術を提供するために必要な知識を身につける。 ・呼吸・循環を整える必要がある対象の特徴を理解し、必要な看護技術について学ぶ。 ・さまざまな与薬の特徴を理解し、看護師の役割と援助の実際を学ぶ。 ・注射と輸血管理の基礎知識を理解し、正確な援助技術について学ぶ。 				
授業計画		授 業 内 容		担当
回	時間			
1	4	〈第 13 章〉 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 3) 感染経路別予防策	菅原
2			4) 洗浄・消毒・滅菌 5) 無菌操作 6) 感染性廃棄物の取り扱い 7) カテーテル関連 血流感染対策 8) 針刺し防止策	
3	2	演習①	標準予防策、感染経路別予防策	
4	6	〈第 9 章〉 与薬の技術	1) 与薬の基礎知識 2) 経口与薬 3) 吸入	松原
5			4) 点眼 5) 点鼻 6) 経皮的与薬 7) 直腸内与薬	
6			8) 注射 9) 輸血管理	
7	2	演習②	1) 直針を用いた静脈内注射 2) 翼状針を用いた点滴静脈内注射 3) 静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射	
8	12	〈第 7 章〉 呼吸・循環を整 える技術	1) 酸素療法 ①援助の基礎知識	鎌田
9			1) 酸素療法 ②援助の実際	
10			2) 排痰ケア	
11			3) 持続吸引 4) 吸入	
12			5) 人工呼吸療法	
13			6) 体温管理の技術 7) 抹消循環促進ケア	
14	2	演習③	酸素マスクによる酸素吸入療法、一時的吸引、 弾性ストッキングの着脱	
15	2	終講試験		
【テキスト、参考書、参考資料等】				
医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ				
【評価の方法】 授業への取り組み状況と提出物及び試験により総合的に評価する。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
成人看護学概論		1 単位（30 時間）	井上 明美	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・成人期にある対象を理解し、成人看護の目的と役割を理解する。 ・成人保健の動向と課題を理解する。 ・生活状況の変遷から、成人期の健康に影響を及ぼす因子を理解する。 ・看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチ法を学ぶ。 ・成人看護の基盤となる理論の概要を知る。 ・各健康レベルに応じた看護実践の特徴を理解する。 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	対象の理解：「成人」とは		
2	2	成人を取り巻く今日の状況（環境・ライフスタイル・健康）		
3	6	成人期の各期の特徴		
4		1) 発達理論 2) 発達課題と発達危機 3) 身体的・心理的・社会的特徴		
5		4) 成人各期の健康問題（生活習慣・職業・生活ストレス） 5) 成人各期の仕事と家族		
6	2	ヘルスプロモーションと看護		
7	6	成人看護の基本アプローチの基本		
8		ケアリング・エンパワーメント・自己効力・セルフケア論・アンドラゴジー		
9		コンプライアンス・アドヒアランスなど		
10	2	急激な健康破綻をきたした人の看護：危機理論		
11	2	健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護：病みの軌跡		
12	2	障害がある人の生活とリハビリテーション		
13	2	人生の最期のときを支える看護：キューブラー＝ロス 死の受容過程		
14	2	患者・家族の意志決定を支える		
15	2	試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論』 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験、授業時のレポート・小テストで総合的に評価する				

専門分野Ⅱ

授業科目名	単位（時間数）	担当講師名	時期
老年看護学概論	1 単位（30 時間）	船瀬孝子	1 年次 後 期
【授業の概要および目標】			
<p>老年期を生きる人々の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、わが国の高齢社会の特徴と課題・保健医療福祉の概要および老年期の人の健康問題と看護について学ぶ。また、老年期を生きる人々の多様性を理解し、高齢者の健康状態のアセスメントと看護を展開するために必要な基礎的知識を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期を生きる人々を多角的にとらえ、発達課題を理解できる。 2. 高齢者の身体の加齢変化とアセスメントの視点が理解できる。 3. 加齢に伴う心身の諸機能の変化と生活への影響を理解できる。 4. 高齢者を取り巻く社会的状況・保健医療福祉の動向について理解できる 5. 老年看護の理念と倫理的課題について考察できる。 			
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。	
授業計画		授 業 内 容	
回	時間		
1	2	授業ガイダンス・ 老いを生きるということ *ライフコース的アプローチからの高齢者の理解：ガイダンス	(講義)
2	2	老いるということ・老年期の発達課題	(講義)
3	2	加齢と老化 身体的・心理的・社会的側面の変化	(講義)
4	2	超高齢社会の統計的輪郭 *高齢者疑似体験ガイダンス	(講義)
5	2	高齢者社会における保健医療福祉の動向	(講義)
6	2	高齢者社会における権利擁護 *ライフコースレポート提出	(講義)
7	2	ライフコース的アプローチからの理解	(GW)
8	2	ライフコース的アプローチからの理解	(発表)
9	2	高齢者疑似体験	(演習)
10	2	高齢者疑似体験	(演習)
11	2	身体の加齢変化とヘルスアセスメント 外皮系/感覚器系	(講義)
12	2	身体の加齢変化とヘルスアセスメント 循環系/呼吸器系	(講義)
13	2	身体の加齢変化とヘルスアセスメント 消化器系/腎・泌尿器系/内分泌・代謝系/運動器系	(講義)
14	2	老年看護の役割 理論・概念の活用	(講義)
15	2	試験	
【教科書】			
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学、医学書院			
【参考書】			
生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図、医学書院			
【評価の方法】			
筆記試験、出席状況			

専門分野Ⅱ

授業科目		単位(時間数)	担当講師名	時期
精神看護学概論		1 単位 (30 時間)	吉野 かほる	1 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健・精神看護の概要を理解する。 ・現在社会における精神保健・看護ニーズの高まりを理解する。 ・精神医療の歴史、精神障がいに関する主要な法律を理解する。 ・心の発達とその危機的状況について理解する。 ・精神医療における専門職連携の必要性和看護の役割を理解する。 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	精神看護学における精神保健 ①精神障がいと精神保健②心の健康と、精神的健康（メンタルヘルス）の定義 ③精神的健康（メンタルヘルス）の保持・増進		
2	2	地域精神保健（コミュニティー・メンタルヘルス）における予防 ①リカバリーを基盤とした精神医療・看護モデル ②精神看護の役割と専門性		
3	2	人間の心のはたらき 心の構造と諸活動		
4	2	ライフサイクルと精神保健 パーソナリティの発達に関する主要な理論		
5	2	心の危機状況と精神保健 ①危機モデル ②ストレスコーピング		
6	2	家族と心の健康（A：DV、B：ハラスメント、C：児童虐待、）		
7	2	暮らしの場（学校・職場）と心の健康（D：いじめ、E：引きこもり、F：不登校）		
8	2	地域現代社会における心の健康（G：自殺、H：自傷行為、I：アルコール依存 J：薬物問題、K：ギャンブル依存、L：IT依存、等）		
9	2	精神障がいの医療・保健・福祉におけるチームアプローチと社会資源、 ①地域包括政策		
10	2	招聘講義（精神障がい者当事者会、河内長野市社会福祉協議会） ②地域包括政策の実際		
11	2	ストレングス理論とレジリエンス。トラウマ・インフォームドケア		
12	2	精神医療における危機理論とリスクマネジメント		
13	2	精神保健医療福祉の沿革・歴史と現在の姿		
14	2	精神保健福祉法における医療の形態と患者の処遇・権利擁護・倫理。まとめ		
15	2	筆記試験		
【教科書・参考書・参考資料】				
『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①②』 医学書院、講師による紙資料				
【評価の方法】				
出席状況、レポート、筆記試験で総合的に評価				

統合分野

授業科目名		単位数 (時間数)	担当講師名	時期
看護の統合と実践 I		1 単位 (30 時間)	播金ヤスミ	1 年次 後期
<p>【授業の概要及び目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護事故の構造と事故防止の考え方が理解できる。 ・診療の補助業務の事故防止の考え方や行動が理解できる。 ・療養上の世話の事故防止の考え方や行動が理解できる。 ・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因について理解できる。 ・医療安全におけるコミュニケーションの問題を理解し、より良いコミュニケーションについて理解できる。 ・看護師の労働安全衛生上のリスクと事故防止について理解できる。 ・組織的な安全管理体制への取り組みについて理解できる。 ・医療安全対策の国内外の取り組みについて理解できる。 				
担当講師の実務経験		大学研究機関にて講義関連分野の研究に従事する講師が担当する。		
授業計画		授業内容		
回	時間			
1	2	・医療事故を学ぶことの大切さ		
2	2	・事故防止の考え方		
3	2	・診療の補助の事故防止 I 患者に投与する業務における事故防止 (注射・機器・輸血・内服・管栄養業務)		
4	2	・診療の補助の事故防止 II 継続中の危険な医療行為の観察・管理における事故防止 (チューブ管理と事故防止)		
5	2	・療養上の世話の事故防止 (転倒・転落事故防止)		
6	2	・療養上の世話の事故防止 (摂食中の窒息・誤嚥防止、異食事故防止、入浴中の事故防止)		
7	2	・業務領域をこえて共通する間違いと発生要因		
8	2	・医療安全とコミュニケーション		
9	2	・事故分析		
10	2	・看護師の労働安全衛生上の事故防止		
11	2	・組織的な安全管理 ①組織としての医療安全対策		
12	2	② システムとしての事故防止		
13	2	③ 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応		
14	2	・医療安全対策の国内外の取り組み		
15	2	終講試験		
<p>【教科書・参考書、参考資料等】</p> <p>教科書：医療安全 看護の統合と実践② 医学書院</p> <p>参考書：医療安全ワークブック 第4版 川村治子 医学書院</p>				
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験 (70%)、課題レポート (30%)</p>				

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
病態生理学Ⅱ		1 単位（30 時間）	大垣 孝雄 佐伯 集一 甲斐 俊朗 藤田 敏晃	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】 看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠となる、呼吸器、循環器、血液、脳神経系に起こる疾病の病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。				
担当講師の実務経験		病院において医師として従事する講師と、所属機関において臨床検査技師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		担当
回	時間			
1	8	〈呼吸器〉 疾患の理解 ・肺炎 ・慢性閉塞性肺疾患 ・肺癌 ・肺結核		大垣
2		検査法 ・聴診（呼吸音） ・気管支鏡 ・呼吸機能検査		
3		・動脈血ガス分圧測定 ・胸腔穿刺		
4				
5	8	〈循環器〉 疾患の理解 ・虚血性心疾患		佐伯
6		検査法 ・負荷心電図 ・心臓カテーテル法		
7		・中心静脈圧測定		
8		治療		
9	4	〈血液〉 疾患の理解 ・白血病		甲斐
10		検査法 ・骨髓穿刺 治療法 ・（骨髓）移植		

11	8	〈脳神経〉 疾患の理解 ・クモ膜下出血 ・脳内出血 ・脳梗塞 ・パーキンソン病	・ギランバレー症候群 ・髄膜炎 ・てんかん ・脳ヘルニア ・髄膜刺激症状 ・運動麻痺、運動失調 ・感覚異常（しびれなど） ・脳波	藤田	
12		症状の理解 ・高次脳機能障害 ・けいれん ・排泄障害 ・呼吸障害 ・頭蓋内圧亢進症状			
13		検査 ・髄液検査 治療			
14					
15	2	試験	【教科書】 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕呼吸器』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経』 医学書院 配布プリント 【参考書、参考資料等】 【評価の方法】 筆記試験		

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
病態生理学Ⅲ		1 単位（30 時間）	矢田豊 宮崎純一 渡辺康則 田中伸生 楠洋子 小畑俊男 大垣孝雄 森本絹子 忽那晴央	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
看護実践における健康・疾病に関する観察力・判断力の根拠となる、消化器、内分泌・代謝、腎・泌尿器に起こる疾病および感染症・アレルギー・膠原病、感覚器系の病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。				
担当講師の実務経験		病院において医師として従事する講師と、所属機関において臨床検査技師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	8	〈消化器〉 疾患の理解 ・胃癌 ・大腸癌 ・食道癌 ・肝臓癌 ・膵臓癌 検査・治療（手術療法）	矢田 宮崎 渡辺 田中	
2				
3				
4				
5	4	〈内分泌・代謝〉 疾患の理解 ・糖尿病 ・痛風 検査・治療	楠	
6				
7	4	〈腎・泌尿器〉 疾患の理解 ・腎不全 ・前立腺肥大 検査・治療（透析療法）	小畑	
8				
9	6	〈感染症・アレルギー・膠原病〉 疾患の理解 ・麻疹、風疹 ・耐性菌感染症 ・全身性エリテマトーデス ・関節リウマチ 検査・治療	大垣	
10				
11				
12	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 検査・治療 ・眼疾患（白内障、緑内障）	森本	
13	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 検査・治療 ・耳鼻科疾患（難聴、副鼻腔炎）	小畑	
14	2	〈感覚器系〉 疾患の理解 検査・治療 ・皮膚疾患（熱傷、皮膚癌）	忽那	

15	2	終講試験
<p>【教科書】</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔12〕 皮膚〔13〕 眼〔14〕 耳鼻咽喉』 医学書院</p> <p>【参考書、参考資料等】</p>		
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験</p>		

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
病態生理学Ⅳ		1単位（30時間）	日高 敦夫 井上 雄一朗 中田 昭 金 光成 田中 奈絵子	2年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器の特徴を理解し、健康障害の病態生理と検査・治療について学習する。 ・小児の健康障害の特殊性を理解し、その検査・治療について学習する。 ・精神障害のメカニズムを理解し、その症状、検査、治療について学習する。 ・運動器系に起こる疾病の病因・病態・症状の特徴と検査・治療についての理解を深める。 				
授業計画		授業内容		担当
回	時間			
1	10	<女性生殖器系> 疾患の理解 ・子宮、卵巣の腫瘍 ・更年期障害、月経異常 ・不妊症、骨盤臓器脱 検査、治療		日高
2				
3				
4				
5				
6	8	<小児疾患> 疾患の理解 ・気管支炎 ・気管支喘息 検査、治療 ・腸重積症 ・ネフローゼ症候群 ・ウイルス感染症 ・先天性心疾患		田中
7				
8				
9				
10	8	<精神疾患> 疾患の理解 ・依存症 ・統合失調症 ・気分障害 ・認知症 ・心的外傷後ストレス障害 検査、治療		井上
11				
12				
13				
14	4	<運動器疾患> 疾患の理解 ・大腿骨頸部骨折 ・変形性関節症		中田 金
15				

	終講試験	
<p>【教科書】</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①』 医学書院</p> <p>『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器』 医学書院</p> <p>配布プリント</p> <p>【参考書、参考資料等】</p>		
<p>【評価の方法】</p> <p>筆記試験</p>		

専門基礎分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
看護関係法令		1単位（15時間）	前島 良弘	2年次 前期
【授業の概要および目標】				
法の概念及び、看護職に必要な法令および社会保障制度の概略について理解し、さらに、関連法規、医療過誤全般について理解する。				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	<u>法の概念</u> 法の基礎的理解及び最近問題となっている生命倫理にかかわる医療問題を考察する。		
2	2	<u>厚生労働行政のしくみ</u> 医療の現場と、行政機関がどのように関係しているかを解明する。		
3	2	<u>医事法規の概要</u> 衛生法規の沿革及び分類を理解することで、今後の法改正に柔軟に対応できる能力をつける。		
4	2	<u>保健師助産師看護師法</u> 改正経過、厚労省の通達を踏まえて逐条解釈、法社会的解釈をします。		
5	2	<u>関連法規について</u> 保健・医療・福祉が様々に交錯する分野を縦割りに理解するだけでなく、横の繋がりを実務的に解明し、社会資源の活用のノウハウを習得する。		
6	2	<u>医療過誤</u> 様々な医療事故・医療過誤事例を検討し、看護職に問われる可能性のある法的責任としての民事責任、刑事責任、行政責任、及び倫理観の問題としての道義的責任について考える。		
7	2	<u>国家試験受験への導入</u>		
8	1	試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
「看護学生のための法規と社会保障制度」（ふくろう出版）				
【評価の方法】成績判定は、終講試験（空所補充問題）と日常授業態度との総合評価により行います。				
【学生へのコメント】				
①法律は生きものです。日進月歩の医療技術と同様に、実態に即して有機的な理解を深めることを目標にします。 ②法律の学習は看護倫理観の醸成にもつながります。また、国家試験に直結する分野でもありますから、3年次になっても学習し続けてください。 ③毎回、重要な授業プリント及び資料を配布します。しっかりファイルしてください。 ④出席を重視し、欠課の場合の課題はレポート形式の課題を課します。 ⑤必要に応じて、単元別国家試験問題演習を行います。				

専門分野 I

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
基礎看護学方法論V		1 単位 (30 時間)	神藤 めぐみ 井上 明美 鎌田 みどり	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・対象が健康生活を送るために必要な活動・休息についてのアセスメントや援助の方法を理解する。 ・苦痛の緩和や精神的安寧を目的とする看護援助の方法を理解する。 ・創傷とその治癒過程のメカニズムを知り、治癒のための方法を理解する。 ・それぞれの検査についての目的や方法を知り、看護を理解する。 ・看護における学習支援の目的と意義を理解する。 				
授業計画				
回	時間	授業内容		
1	2	1. 活動・休息援助技術 (第 4 章)		
2	2	2. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 (第 5 章)		
3	2			
4	2	3 創傷管理技術 (第 6 章)		
5	2	4. 症状・生体機能管理技術 (第 11 章)		
6	2	5. 診察・検査・処置の介助技術 (第 12 章)		
7	2	6. 学習支援		
8	8	【演習】事例を通して退院支援を考える グループワーク		
9				
10				
11				
12	4	【演習】退院支援 発表		
13				
14	2	【OSCE②】技術試験		
15	2	終講試験		
【教科書】				
(7～13回) 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I』医学書院				
(1～6回) 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II』医学書院				
【参考書】				
『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 (4) 臨床看護総論』医学書院				
筆記試験、講義・演習の取り組み				
【評価の方法】				
筆記試験、OSCE				

専門分野Ⅱ

授業科目名		時間数	担当講師名	時期
成人看護学方法論Ⅰ		1単位(30時間)	山本 敏光 寺下 千穂 安藤 真由美 北中 美由紀	2年次 前期
【授業の概要および目標】 病態生理学で学んだ知識をもとに、それぞれの健康障害の特徴および生活上の諸問題とセルフマネジメントに向けた援助方法について学習し、健康回復に向けての看護を理解する。				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授業内容		担当
回	時間			
1	2	<呼吸機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) せき・喀たん 2) 血たん・喀血 3) 胸痛 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ		山本
2	6	2. 疾患をもつ患者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患 2) 肺結核		
3		3. 気胸をもつ患者の看護(胸腔ドレナージ)		
4		4. 肺癌をもつ患者の看護(開胸手術) 5. 気管切開術を受ける患者の看護		
5	2	<循環機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) 胸痛 2) 不整脈 3) ショック 4) 浮腫 5) 高血圧		寺下
6	6	2. 疾患をもつ患者の看護 1) 心筋梗塞 2) 狭心症		
7		3. ペースメーカーを挿入する患者の看護		
8				
9	2	<生体防御機能低下のある患者の看護(血液・アレルギー・膠原病)> 1. 症状に対する看護 1) 貧血 2) 出血傾向(易感染性)		安藤
10	2	2. 疾患をもつ患者の看護 1) 播種性血管内凝固症候群 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 関節リウマチ 5) 全身性エリテマトーデス 6) 後天性免疫不全症候群		
11	4	<消化・吸収機能障害のある患者の看護> 1. 症状に対する看護 1) 嘔気・嘔吐 2) 腹部膨満 3) 吐血・下血 4) 黄疸		北中
12		2. 内視鏡検査を受ける患者の看護 3. 肝生検を受ける患者の看護		
13	4	4. 疾患をもつ患者の看護 1) 食道癌 2) 胃癌 3) 大腸癌 4) 胃・十二指腸潰瘍		
14		4) 肝炎・肝硬変・肝臓癌 5) 膵炎 6) 胆石症		
15	2	試験		

【教科書】

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(2) 呼吸器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(3) 循環器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(4) 血液・造血器』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(11) アレルギー・膠原病・感染症』 医学書院

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学(5) 消化器』 医学書院

【参考書・参考資料等】

【評価の方法】

筆記試験

専門分野Ⅱ

授業科目名		時間数	担当講師名	時期
成人看護学方法論Ⅱ		1単位(30時間)	高橋 亜由美 山上 雅美 平川 智子 間部 美代子	2年次 前期
【授業の概要および目標】 病態生理学で学んだ知識をもとに、それぞれの健康障害の特徴および生活上の諸問題とセルフマネジメントに向けた援助方法について学習し、健康回復に向けての看護を理解する。				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	6	<内分泌・代謝機能障害のある患者の看護>		高橋
2		1. 疾患をもつ患者の看護		
3		1) 糖尿病 2) 痛風 3) メタボリック症候群 4) 甲状腺機能亢進症・低下症 5) 下垂体・副腎皮質機能不全		
4	2	<脳神経機能障害のある患者の看護>		山上
		1. 症状に対する看護 1) 意識障害 2) 運動の異常 3) 高次脳機能障害 4) けいれん 5) 頭蓋内圧亢進症状 2. 【演習】嚥下障害のある患者の食事介助		
5	6	3. 疾患をもつ患者の看護		平川
6		1) 脳梗塞 2) 脳出血 3) 脳腫瘍		
7		4) クモ膜下出血 4. V-P シャント術を受ける患者の看護		
8	6	<体液調節機能障害のある患者の看護>		平川
9		1. 疾患をもつ患者の看護		
10		1) 腎不全 2) 糸球体腎炎 3) ネフローゼ 2. 人工透析を受ける患者の看護		
11	8	<運動機能障害のある患者の看護>		間部
12		1. 援助のためのおもな知識と技術		
13		2. 保存療法を受ける患者の看護		
14		3. 手術を受ける患者の看護(骨折・椎間板ヘルニア)		
15	2	試験		
【教科書】 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳神経』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕運動器』 医学書院				
【参考書、参考資料等】				
【評価の方法】 筆記試験				

専門分野Ⅱ

授業科目名		時間数	担当講師名	時期
成人看護学方法論Ⅲ		1 単位 (30 時間)	馬込 夏奈 三浦 文子 井上 明美	2 年次 前期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・手術による侵襲および術後の回復過程をふまえ、必要な援助内容を理解する。 ・成人期にある対象の事例を通して、発達段階・健康レベル・生活面からとらえた看護を展開するプロセスを理解する。 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	<周手術期看護> 1. 外科的侵襲から回復期の生体反応 2. 外科的侵襲の種類	馬込	
2	2	3. 術前の看護		
3	2	4. 術中の看護		
4	2	5. 術後合併症予防と発症時の援助	三浦	
5	2	6. 術後の継続看護		
6	2	<事例展開> 1. 事例紹介 2. フェイスシート、データベース 3. 解釈分析 ①健康知覚-健康管理	井上	
7	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ②栄養-代謝 ③排泄		
8	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ④活動-運動 ⑤睡眠-休息		
9	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ⑥認知-知覚 ⑦自己知覚-自己概念 ⑧役割-関係		
10	2	<事例展開> 3. 解釈分析 ⑨性-生殖器 ⑩コーピング-ストレス ⑪価値-信念		
11	2	<事例展開> 4. 関連図 5. 問題リスト		
12	2	<事例展開> 6. 看護計画立案 7. 実施計画立案		
13	4	【演習】 8. 術後管理に基づく全身清拭（輸液挿入中・ドレーン挿入中）		
14		9. 経過記録（SOAP）		
15	2	筆記試験		
【教科書】				
『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』 医学書院 配布資料				
【評価の方法】				
筆記試験、出席状況、授業態度				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期	
老年看護学方法論Ⅰ		1単位 (30時間)	松原 希実子 赤木 美和 喜多 佳永子	2年次 前期	
【授業の概要および目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・加齢による変化が生活へ及ぼす影響と高齢者の生活の特徴および健康維持・増進に向けた看護の方法を理解できる。 ・高齢者に特有な症候・疾患・障害を学びアセスメントとケアの方法を理解できる。 					
担当講師の実務経験		病院において看護師、または歯科衛生士として従事する講師が担当する。			
授業計画		授 業 内 容			
回	時間				
1	2	身体の高齢変化とアセスメント① 皮膚・視覚・聴覚 高齢者に多い疾患の看護(白癬・疥癬・褥瘡・白内障・緑内障・老人性難聴)			松原
2	2	身体の高齢変化とアセスメント②循環系・呼吸器系 高齢者に多い疾患の看護(心不全・肺炎[誤嚥性・沈下性])			
3	2	身体の高齢変化とアセスメント③ 消化吸収・ホルモン・泌尿生殖器・運動系 高齢者に多い疾患の看護(肝硬変・前立腺肥大・大腿骨頸部骨折)			
4	2	高齢者によく見られる身体症状とアセスメント④ 発熱・痛み・痒み・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感 高齢者に多い疾患の看護(熱中症)			
5	2	高齢者の生活機能を整える看護の展開 環境・食事・食生活・排泄・清潔			
6	2	高齢者の生活機能を整える看護の展開 廃用症候群・生活リズム・コミュニケーション			
7	2	高齢者に多い疾患の看護 (パーキンソン病・骨折・変形性膝関節症)			
8	2	事例演習計画書の立案			
9	4	【演習】転倒リスクのある高齢者への清潔ケア			
10					
11	2	認知機能の障害に対する看護ケア①			赤木
12	2	認知機能の障害に対する看護ケア②			
13	2	【演習】 口腔ケア①			喜多
14	2	【演習】 口腔ケア②			
15	2	試験			
【教科書】【参考書】					
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』医学書院					
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論』医学書院					
『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』医学書院					
【評価の方法】筆記試験 演習への参加 出席状況					

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
老年看護学方法論Ⅱ		1 単位（30 時間）	河部 小百合 田中 宏美 松永 久美子 有田 弥棋子 松原 希実子	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 治療を受ける高齢者の特徴と必要な看護の方法を理解できる。 ・ 寝たきりによる影響・弊害を学び身体可動性の障害をもつ高齢者の看護の方法を理解できる。 ・ 健康逸脱からの回復と終末期にある高齢者のQOLを高める看護の方法を理解できる。 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	診断過程における高齢者の看護	河部	
2	2	入院を必要とする高齢者の看護		
3	2	退院時の看護と継続看護		
4	2	薬物治療を受ける高齢者の看護	田中	
5	2	手術療法を受ける高齢者の看護		
6	2	身体可動性障害のある高齢者の看護	松永	
7	2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護		
8	2	終末期にある高齢者の看護①	有田	
9	2	終末期にある高齢者の看護②		
10	2	看護過程の展開 ①事例紹介 情報分析	松原	
11	2	看護過程の展開 ②情報分析		
12	2	看護過程の展開 ③情報分析		
13	2	看護過程の展開 ④統合・看護診断		
14	2	看護過程の展開 ⑤看護計画		
15	2	試験		
【教科書】【参考書】				
『生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図』 医学書院				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』 医学書院				
『系統看護学講座 別巻 緩和ケア』 医学書院				
リンダJカルペニート『看護診断ハンドブック』 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験				
出席状況				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学概論		1 単位（30 時間）	眞栄里 直美	2 年次 前期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護の特徴と理念および小児看護における倫理について学び、小児看護の役割を理解する。 ・小児看護の変遷と子どもと家族を取り巻く社会について学び、小児看護の課題を考える。 ・小児の成長・発達および子どもの栄養について学び理解する。 ・病気・障害をもつ小児とその家族の特徴について学び、看護の特徴を理解する。 ・子どもの発達段階および健康段階・環境に応じた看護の特徴を理解する。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	小児看護の特徴と理念		
2	2	子どもの成長・発達①		
3	2	子どもの成長・発達②		
4	2	子どもの栄養		
5	2	新生児・乳児①		
6	2	新生児・乳児②		
7	2	新生児・乳児③ 幼児・学童①		
8	2	幼児・学童②		
9	2	幼児・学童③ 思春期・青年期の子ども①		
10	2	思春期・青年期の子ども②		
11	2	思春期・青年期の子ども③		
12	2	家族の特徴とアセスメント 子どもと家族を取り巻く社会①		
13	2	子どもと家族を取り巻く社会②		
14	2	子どもの虐待と看護（臨床看護総論第8章） 障害のある子どもと家族の看護（臨床看護総論第7章）		
15	2	終講試験		
【テキスト】 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護概論小児臨床看護総論				
【参考文献】 へるす出版 小児看護				
【評価の方法】 試験・授業態度・課題提出状況により総合的に評価する。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学方法論Ⅰ		1 単位（30 時間）	眞栄里 直美	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児のアセスメントおよび状況別・経過別・症状別・検査・処置別看護について学ぶ。 ・科学的根拠に基づいた安全で安楽な小児看護の援助技術について学び考えることで、小児看護の特殊性を理解する。 ・看護過程を行い、小児に代表的な疾患の看護について理解する。 ・看護過程を行い、適切に問題解決する能力を養う。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	子どもの虐待と看護（小児臨床看護総論第8章） 病気・障害を持つ子どもと家族の看護（小児臨床看護総論第1章）		
2	2	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護（小児臨床看護総論第2章）		
3	2	子どものアセスメント①		
4	2	子どものアセスメント② 症状を示す子どもの看護①		
5	2	症状を示す子どもの看護②		
6	2	検査・処置を受ける子どもの看護		
7	2	〈看護過程①〉事例展開の説明・資料配布・事例紹介・情報分類		
8	2	〈看護過程②〉情報分析		
9	2	〈看護過程③〉情報分析		
10	2	〈看護過程④〉情報分析		
11	2	〈看護過程⑤〉情報分析		
12	2	〈看護過程⑥〉情報分析		
13	2	〈看護過程⑦〉統合・看護診断		
14	2	〈看護過程⑧〉看護計画		
15	2	終講試験		
【教科書】				
医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学Ⅰ 小児看護概論 小児臨床看護総論 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術				
【参考図書】				
医学書院 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 第1版 南江堂 看護学テキスト NiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技				
【評価の方法】				
授業への取り組み状況と提出物及び試験により総合的に評価する。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
小児看護学方法論Ⅱ		1単位（30時間）	眞栄里 直美	2年次 後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児に特有の疾患や健康障害について学習し、必要な看護について考える。 ・さまざまな小児の発達段階および健康障害における、小児臨床看護の実際を理解する。 ・演習やグループワークを通して、小児とその家族を尊重し思いやりをもって接する看護の知識・技術・態度を修得する。 				
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	〈グループワーク〉 IgA 血管炎／気管支喘息／川崎病／18 トリソミー／I 型糖尿病の患児の看護		
2	2			
3	2			
4	2	〈発表〉 IgA 血管炎／気管支喘息／川崎病／18 トリソミー／I 型糖尿病の患児の看護		
5	2			
6	2	子どもの安全を守る看護		
7	2	子どもにおける疾病の経過と看護（小児臨床看護総論第3章）①		
8	2	子どもにおける疾病の経過と看護（小児臨床看護総論第3章）②		
9	2	〈演習〉子どものバイタルサイン測定		
10	2	〈演習〉プレパレーションと曼荼羅塗り絵		
11	2	〈グループワーク〉子どものバイタルサイン測定とプレパレーションおよび曼荼羅塗り絵		
12	2	〈発表〉子どものバイタルサイン測定とプレパレーションおよび曼荼羅塗り絵		
13	2	・小児に多い疾患と看護 食物アレルギー、感染症、熱性けいれん、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、アトピー性皮膚炎、悪性腫瘍、急性虫垂炎、発達障害（LD、ADHD、アスペルガー、など）、心疾患、ヒルシュプルング病、腸重積、髄膜炎など		
14	2			
15	2	終講試験		
【教科書】				
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院				
【評価の方法】				
演習やグループワークへの取り組み状況、課題レポートの内容及び試験により総合的に評価する。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
母性看護学概論		1 単位（30 時間）	深津 起代子	2 年次 前期
【授業の概要および目標】				
1. 母性の様々な概念を理解し、母性看護・母子の保健に関する基礎的知識を養う。 2. リプロダクティブヘルス/ライツを理解し、ヘルスケアの課題について考えることが出来る。 3. 女性のライフサステージを通して、各期の多側面から健康上の特徴、課題について理解し、女性と家族の健康支援のための必要な知識を養う。				
担当講師の実務経験		病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	・母性、父性、親性について ・母性の概念の歴史の変遷		
2	2	・リプロダクティブヘルス/ライツ、セクシュアリティについて 1. 女性にとってのリプロダクティブヘルス/ライツ 2. セクシュアリティとはなにか、性の価値観、多様性の理解		
3	2	・母性看護における倫理的課題、意思決定を支えるケア		
4	2	・母性を取り巻く歴史の変遷と現状 1. 母子保健統計の動向		
5	2	・母性看護に関する施策と法律 ・母性看護の対象を取り巻く環境		
6	4	・母性看護の対象理解の理解 1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2. 女性のライフサイクルと家族		
7				
8	2	・親となる過程、家族適応を促すケア		
9	2	・思春期の健康問題と看護		
10	2	・成熟期の健康問題と看護		
11	2	・更年期・老年期の健康問題と看護		
12	6	・現代社会における母性の健康をめぐる課題 1. 子ども虐待 2. DV 3. 人工妊娠中絶と看護 4. 性感染症 5. 喫煙女性の健康と看護		
13				
14	2	・母子保健の国際化の現状と課題		
15	2	・終講試験		
【教科書・参考書、参考資料等】				
『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学概論』 医学書院				
『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』 医学書院				
『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕女性生殖器』 医学書院				
【評価の方法】終講試験（筆記）				
レポートなどの提出物がある場合は、それを評価の対象に含めて合算し、100 点満点とする。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
母性看護学方法論Ⅰ		1 単位（30 時間）	黒川 知恵	2 年次 前期
【授業の概要および目標】				
1. 妊娠・分娩・産褥および新生児各期の特徴を踏まえた看護について理解する。 2. 妊娠・分娩・産褥および新生児の各期における正常からの逸脱を判断する基礎的知識を習得し、対象に必要な看護を理解する。				
担当講師の実務経験		病院において看護師および助産師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	6	・妊娠期の看護 1. 妊娠期の身体的、心理的、社会的特性 2. 妊娠と胎児のアセスメント 3. 妊婦と家族の看護		
2				
3				
4	2	・正常から逸脱した対象の看護（妊娠期）		
5	4	・分娩期の看護 1. 分娩の要素と正常経過 2. 産婦のアセスメント 3. 分娩期の看護の実際		
6				
7	2	・正常から逸脱した対象の看護（分娩期）		
8	4	・産褥期の看護 1. 産褥の経過 2. 褥婦のアセスメント 3. 褥婦と家族の看護		
9				
10	2	・正常から逸脱した対象の看護（産褥期）		
11	6	・新生児の看護 1. 新生児の生理 2. 新生児のアセスメント 3. 新生児の看護		
12				
13				
14	2	・正常から逸脱した対象の看護（新生児）		
15	2	終講試験		
【教科書・参考書】				
『系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論』 医学書院				
『根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版』 医学書院				
【評価の方法】				
1. 原則、終講試験での評価とする。 2. 出席状況、レポートなどの提出物がある場合は、それを評価の対象に含めて合算し、100 点満点とする。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
母性看護学方法論Ⅱ ＜事例展開＞		1 単位（30 時間）	黒川 知恵 深津 起代子	2 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
1. 母性看護における看護過程の展開のプロセスを理解する。				
2. 妊産褥婦および新生児の健康状態を評価するためのアセスメントの基本を理解する。				
3. 母性看護学の対象と看護援助の特徴を踏まえた看護技術を習得する。				
回	時間	授 業 内 容		
1	4	・母性看護の看護過程の特徴		
2		・ウエルネス志向とマタニティ診断について		
3	2	・事例紹介		
4	2	・妊娠期、分娩期のデータベース、経過診断について		
5	4	・産褥期のデータベース、経過診断・健康生活診断について		
6		・産褥経過記録について		
7	4	・産褥経過記録について		
8		・新生児期のデータベース、経過診断・健康生活診断について		
9	4	・新生児経過記録について		
10		・関連図の作成（GW）		
11	4	・看護目標、看護計画の立案		
12		・看護目標、看護計画の立案		
13	2	【技術演習】（含ビデオ学習）		
14	4	① 褥婦のフィジカルアセスメント、産褥期の子宮底測定		
15		② 妊婦の腹囲、子宮底測定、レオポルド触診、ドップラー聴取、胎児心拍モニターの装着		
16	2	③ 新生児の抱き方・ボトル哺乳・排気・おむつ交換・新生児の移送		
17	4	④ 新生児のフィジカルアセスメント		
18		＜GW＞・事例から褥婦に対する保健指導案を作成		
19	4	【演習】保健指導：ロールプレイ発表		
20		まとめ		
【教科書】				
系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院				
根拠と事故防止からみた母性看護技術 第2版 医学書院				
マタニティ診断ガイドブック：医学書院				
【評価】事例展開（50点）、演習（50点）グループワークの取り組み、技術演習・提出物 その他、出席状況、平常点から総合的に評価する。				
【学生へのコメント】				
母性看護学実習を行う上で、必須の基礎知識と基礎技術を習得するための取得必須科目です。 演習が主体であるため事前学習を行い、授業に臨んでください。				

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
精神看護学方法論Ⅰ		1 単位（30 時間）	中田 巧一 吉野 かほる	2 年次 前期・後期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ ころの問題をもつ対象とその家族の特徴を理解する。 ・ 自己理解・他者理解するための自己洞察の必要性、および方法を理解する。 ・ 事例展開をとおして、精神に障害のある対象とその家族を理解する視点と必要な援助に対する理解を深める。 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス		
2	2	精神科以外での精神看護 1. 身体疾患と精神看護 2. リエゾン精神看護 3. コミュニティにおける精神保健・精神看護		
3	2	ケアの人間関係（患者－看護師関係の相互作用） 1. 患者理解の方法 2. 患者－看護師関係の成り立ち 3. 患者－看護師関係の発展過程 4. 精神看護に用いる理論 ・ 対人関係論による看護の展開：ペプロウ		
4	2	・ 対人関係論による看護の展開：トラベルピー、外口玉子		
5	2	・ ケアリング、ナラティブ		
6	4	患者理解とコミュニケーション技法 1. ころの問題がコミュニケーションに与える影響 (精神障がいのある患者の特徴、薬剤の副作用による特徴)		
7		2. コミュニケーションの技法		
8	2	関係のなかの人間 1. 集団と自己 2. グループダイナミクス効果		
9	2	プロセスレコードの意義と方法 1. プロセスレコードとは 2. 目的 3. 書き方 4. 演習		
10	2	事例展開 1. 事例紹介 2. フェイスシート・データベース		
11	2	3. 分析・統合		
12	2	4. 分析・統合		
13	2	5. 関連図・問題リスト		
14	2	6. 看護計画		
15	2	試験（筆記）		
【教科書】		『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①』 医学書院 『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②』 医学書院		
【評価の方法】		筆記試験と事例展開（個人ワーク、記録の提出）		

中田

吉野

専門分野Ⅱ

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
精神看護学方法論Ⅱ		1単位（30時間）	野村 佳香	2年次 後期
【授業の概要および目標】 精神疾患についての症状を学び、精神に障害をもつ人を理解するための看護の視点、および必要な援助を理解する。				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	司法精神看護		
2	2	精神看護のリスクマネジメント		
3	2	精神障がいを持つ人の理解と対応 1. 精神疾患患者の理解 2. 行動制限と看護		
4	2	入院から退院までの経過 1. 急性期 2. 回復期 3. 寛解期 4. 慢性期		
5	4	精神看護のリスクマネジメント 1. リスクマネジメントとは 2. 精神医療における医療事故 3. 事故の防止と対応		
6				
7	2	精神障がいを持つ人への看護援助の基本 1. 日常生活援助		
8	8	症状アセスメントとケアプラン 1. 幻覚、妄想の患者の看護 2. せん妄・昏迷の患者の看護 3. うつ状態の患者の看護 4. 自殺・自傷行為がある患者の看護 5. 統合失調症患者の看護 6. 依存症患者の看護 7. 認知症患者の看護 8. 気分障害の患者の看護 など		
9				
10				
11				
12	6	日常生活行動と精神の健康問題の対応 1. 不眠状態の患者の看護 2. 拒絶的な患者の看護 3. 興奮状態の患者の看護 4. 不安状態の患者の看護 5. 攻撃的行動をとる患者の看護 6. 摂食行動の障害の患者の看護 など		
13				
14				
15	2	試験		
【教科書】 『系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学②』 医学書院				
【評価の方法】		筆記試験		

統合分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
在宅看護論概論		1 単位（30 時間）	鎌田 みどり	2 年次 前期
【授業の概要および目標】				
1. 在宅看護が必要とされる社会背景が理解できる。 2. 在宅看護の対象を生活者と捉え、その特徴について理解できる。 3. 家族アセスメント・支援の方法が理解できる。 4. 在宅ケアシステムにおける看護職の役割について学ぶ。 5. 在宅療養を支える制度と社会資源が理解できる。				
担当講師の実務経験		地域包括支援センターにおいて看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	在宅看護とは		
2	2	在宅看護の変遷・目的・特徴		
3	2	在宅看護の対象者		
4	4	介護・福祉機器の見学		
5		バリアフリー2021（インテックス大阪）		
6	2	在宅看護と家族		
7	2	在宅看護にかかわる法令・制度①		
8	2	在宅看護にかかわる法令・制度②		
9	2	在宅看護にかかわる法令・制度③		
10	2	ケアマネジメントと社会資源の活用		
11	2	地域包括ケアシステム①		
12	2	地域包括ケアシステム②		
13	2	認知症サポート養成講座		
14	2	エンド・オブ・ライフケア		
15	2	終講試験・振り返り		
【教科書】				
医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
【評価方法】				
出席状況、課題レポート、筆記試験で総合的に評価				

統合分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
在宅看護論方法論 I		1 単位（30 時間）	早川 恵美子	2 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
1. 療養者の「生活者」としてとらえ、自己決定の尊重や自立支援を重視する在宅看護の展開方法を学ぶ。				
2. 療養者と家族の生活を支援するための安全管理やアセスメントの視点・方法と介助の方法を理解できる。				
3. 在宅の場で必要な日常生活援助や医療技術とそれに伴う看護を学ぶ。				
担当講師の実務経験		訪問看護ステーションにおいて看護師として従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	在宅療養を支える看護 1. 訪問看護の特徴 2. 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3. 訪問看護の実践 4. 訪問看護の記録		
2	2	在宅ケアにおける感染症		
3	2	在宅における援助技術 1. 食の援助		
4	2	2. 清潔の援助		
5	2	3. 移動の援助 4. 排泄の援助		
6	2	5. 呼吸の援助		
7	2	6. 服薬管理		
8	2	7. 腹膜透析（CAPD）の援助		
9	2	8. ターミナル期の援助		
10	2	【演習】 在宅療養者への清潔援助 ・事例に合わせた方法のアセスメント・計画 ・援助の実施・評価		
11	8	在宅医療技術 ・褥瘡 ・ストーマ、ウロストミー		
12				
13				
14				
15	2	試験・振り返り		
【教科書・参考文献】				
『系統看護学講座 統合分野 在宅看護論』 医学書院				
【評価の方法】				
筆記試験				
【学生へのコメント】				
自己決定の尊重や自立支援を重視する在宅看護の実際を学ぶ機会とします。				

統合分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
在宅看護論方法論Ⅱ		1単位（30時間）	鎌田 みどり	2年次 後期
【授業の概要および目標】				
1. 在宅看護過程の展開方法が理解でき、看護過程の展開ができる。 2. 在宅における生活支援の方法が理解できる。 3. 在宅における医療管理を必要とする人とその看護について理解できる。 4. 在宅療養者や家族と信頼関係を形成するための方法が理解できる。				
担当講師の実務経験		地域包括支援センターにおいて看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	在宅看護過程のポイント		
2	2	療養上のリスクマネジメント		
3	2	療養の場の移行における支援		
4	2	在宅療養を支える医療ケア 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法 帝人在宅医療株式会社		
5	2	事例紹介 情報整理		
6	6	分析・統合		
7				
8				
9	2	関連図・問題リスト		
10	2	看護計画立案		
11	2	演習計画立案		
12	2	演習計画立案		
13	4	訪問看護演習(訪問時のマナー)		
14				
15	2	終講試験・振り返り		
【教科書】				
医学書院 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論				
【評価の方法】				
出席状況、課題レポート、演習状況、筆記試験で総合的に評価				
【学生へのコメント】				
在宅療養者及び家族への支援する方法をイメージ化できるように、事例を通して学んでいきます。基本的な援助が在宅の場でも実施できるように取り組んでいきましょう。				

統合分野

授業科目名		単位（時間数）	担当講師名	時期
看護の統合と実践Ⅱ （救急・災害・国際）		1 単位（30 時間）	中村 直晶	2 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護の目的を知り、目的達成のための手段がわかる ・ 生命サイクルがわかり、ABCD アプローチができる ・ 救命処置法の必要性和手技がわかる ・ 循環の基礎がわかり、循環不全の症状が理解できる ・ 循環不全の種類と病態生理がわかる ・ 緊急処置を必要とする疾患がわかる ・ 呼吸の観察ポイントがわかる ・ 呼吸音の種類、病態生理が理解できる ・ 意識と意識障害について理解できる ・ 意識の観察の方法を知ることが出来る ・ 災害の種類を知り、災害看護の基本がわかる ・ 災害看護の活動場所や、場所に応じた看護活動を知ることができる ・ 災害活動の実際を知り、災害看護活動がイメージできる ・ 被災者、医療者に起こりうる精神状態を知ることができる 				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事した経験のある講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	看護の目的を知り、目的達成のための手段がわかる ・ 看護の目的、対象について ・ 看護の目的を達成させる方法。手段について		
2	2	生命サイクルがわかり、ABCD アプローチができる ・ 生命サイクルについて ・ ABCD アプローチについて ・ 急変について ・ 急変させない方法について		
3	2	救命処置法の必要性和手技がわかる ・ 一次救命法について ・ 呼吸の確認について ・ 胸骨圧迫心臓マッサージについて ・ AED について		
4	2	循環の基礎がわかり、循環不全の症状が理解できる ・ 循環の 3 要素について ・ 循環不全(ショック)について		
5	2	循環不全の種類と病態生理がわかる ・ ショックの種類について ・ それぞれの特徴と関連する疾患について		
6	2	緊急処置を必要とする疾患がわかる ・ 5killer chest Paine について ・ 心不全について		
7	2	呼吸の観察ポイントがわかる		

		<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器の解剖生理について ・呼吸の観察方法、異常呼吸について
8	2	呼吸音の種類、病態生理が理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸音の特徴について ・吸引について
9	2	意識と意識障害について理解できる <ul style="list-style-type: none"> ・意識について ・意識の正常と異常について ・意識障害の原因について
10	2	意識の観察の方法を知ることができる <ul style="list-style-type: none"> ・グラスゴー コーマ スケールについて ・ジャパンコーマスケールについて ・スケールの使い方について
11	2	災害の種類を知り、災害看護の基本がわかる <ul style="list-style-type: none"> ・災害の種類について ・災害看護について 災害看護の活動場所や、場に応じた看護活動を知ることができる <ul style="list-style-type: none"> ・災害サイクルについて ・CSCATTTについて ・災害トリアージについて
12	2	災害活動の実際を知り、災害看護活動がイメージできる <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災での医療活動について ・熊本地震での災害医療活動について ・西日本豪雨災害での災害支援ナースとしての活動について
13	2	被災者、医療者に起こりうる精神状態を知ることができる <ul style="list-style-type: none"> ・被災者の精神的、身体的影響について ・支援者の精神的影響について
14	2	国際看護について <ul style="list-style-type: none"> ・国際看護のとは ・人間の安全保障 ・持続可能な開発目標 ・国際協力の仕組み
15	2	試験
【教科書】 『系統看護学講座 別巻 救急看護学』 医学書院 『系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学』 医学書院		
【評価の方法】 筆記試験、出席状況、講義・演習の取り組み		

統合分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
看護の統合と実践Ⅲ (看護研究)		1 単位 (30 時間)	野村 佳香	2 年次 後 期
【授業の概要および目標】				
看護実践に科学的視点を持てるように看護研究の必要性、目的、研究方法を学ぶ。研究方法については、研究テーマの決定、文献の集め方、読み方、研究論文の書き方、研究発表の方法を理解し、研究を展開できる基礎的能力を養うことを目標とする。				
担当講師の実務経験		病院において看護師に従事する講師が担当する。		
授業計画		授 業 内 容		
回	時間			
1	2	看護研究とは (看護研究の意義)		
2	2	看護研究のプロセス (研究テーマの決め方)		
3	2	看護研究のプロセス (倫理的配慮 研究の進め方)		
4	2	看護研究のプロセス (文献の集め方読み方)		
5	2	看護とケーススタディ		
6	2	ケーススタディにおけるケースレポート (企画と準備)		
7	2	ケーススタディにおけるケースレポート (ケースレポートの作成)		
8	2	ケーススタディにおけるケースレポート (ケースレポートの発表)		
9	4	ケースレポート実例と解説 (グループワーク)		
10				
11	4	ケースレポートの発表		
12				
13	4	関西看護学生看護研究大会		
14				
15	2	まとめ (試験)		
【教科書・参考書、参考資料等】				
テキストなし				
【評価の方法】				
試験、レポート、グループワークへの参加度で評価する。				

統合分野

授業科目名		単位 (時間数)	担当講師名	時期
看護の統合と実践Ⅳ		1 単位 (30 時間)	三原 豊子 神藤 めぐみ	3 年生 前期・後期
【授業の概要および目標】				
1. 『最良の看護を目的』として、そのためのシステムとその運用方法を、授業を通じて理解する。				
2. マネジメントに必要な知識と技術を理解する。				
3. 研究活動のプロセスを理解し、看護実践を振り返ることで看護に対する考えを深める機会とする。				
4. 事例を通して、複数患者受け持ち時の時間配分、優先順位について学ぶ。				
担当講師の実務経験		病院において看護師として従事経験がある講師が担当する。		
授業計画		授業内容		担当
回	時間			
1	2	第1章 看護とマネジメント 看護管理とは～ マネジメントとは～		三原
2	2	第2章 ケアのマネジメント 看護基準と看護手順 患者の権利の尊重～インフォームドコンセント～ 看護管理～インシデントレポート 看護職の協働～ 看護ケア提供システム～		
3	4	第2章 ケアのマネジメント 他職種との協働～ 情報～		
4		第3章 看護サービスのマネジメント 看護管理の定義～ 看護の組織化～ 看護単位の機能～ 新人教育～ サービスの評価～		
5	2	第4章 看護をとりまく諸制度 看護職と法制度～ 医療制度～ 第5章 マネジメントに必要な知識と技術 組織原理～ リーダーシップの定義～ コミュニケーション～ ストレスマネジメント～ その他		
6	2	看護研究オリエンテーション		神藤
7	2	看護研究論文執筆①		
8	2	看護研究論文執筆②		
9	2	看護研究発表原稿と資料作成①		
10	2	看護研究発表原稿と資料作成②		
11	2	看護研究発表原稿と資料作成③		
12	2	看護研究発表と聴講①		
13	2	看護研究発表と聴講②		
14	2	看護研究発表と聴講③		
15	2	終講試験		
【教科書・参考書・参考資料等】				
系統看護学講座 統合分野 看護管理 医学書院				
領域別実習で学習したこと全て				

【評価の方法】

出席単位および筆記試験

授業態度と授業に臨む姿勢

課題レポート

【学生へのコメント】

- ・看護の管理って何だろう。興味をもってください。
- ・看護研究担当：主体的に担当教員にアポイントメントを取り、指導を受けながら進めてください。
提出期限以降の提出は評価の対象になりません。3年間の集大成として、看護実践を考察しながら自分の考えをまとめ、相手に伝える力を身につけましょう。



学籍番号

名前
